愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回（五日廿日）發行●電話番町千七百十番●同五百廿番●郵送無料●振替貯金口座壹壹弐一番

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金弐十錢●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所●發行兼編輯者永持德一●印刷人山澤俊夫

明治四十二年五月五日發行　May 5th. 1909.

社説

遺子の教育……（教養所に對する所感）

愛國婦人會の經營にかゝる戰死軍人の遺子教養所は、先月十一日を以て、その開所式を行へり。場所は、我が國戰死者すべての靈を祀れる九段坂下、時は櫻木の、花に梢を埋めたるをり、參列せるものは、武勳赫々の各師團長、淑德芳しき貴婦人等、而してその收容さるゝものは、殉國軍人最愛の忘れ形見にして、各地方より遙々上り來れる五十名のいたいけなる兒童なり。實に、人も、場所も、時も、感深く思出多き式なりき。

我等は多くの式なるものに列したり。殊に當時は各學校卒業式擧行の最中にて幾百の妙齡の婦人が、花の如く着飾れる中に、貴き方の祝辭讀まるゝもありき。されども我等はたゞ美しと見しのみ、祝辭も形の如き祝辭にて、何等の感も興らざりき。彼等は、暖かなる父母と家庭とを有し、常は十分の養護と學資とを受け卒業式には、此處を晴れと、美服の着らるる身にて、何等の心配もなく、心配とては、たゞ如何なる着物を着て出でんかにありしのみ。遺子教養所開所式に列せる兒童は然らず。彼等は、己が不心得より身を投げたるにもあらず、鐵道に飛び込みたるにもあらず、全く大君のため、國のために、潔き戰死を遂げたる親の子にして、あらばあらるべき齡にて、早くも親に別れたる者なり。

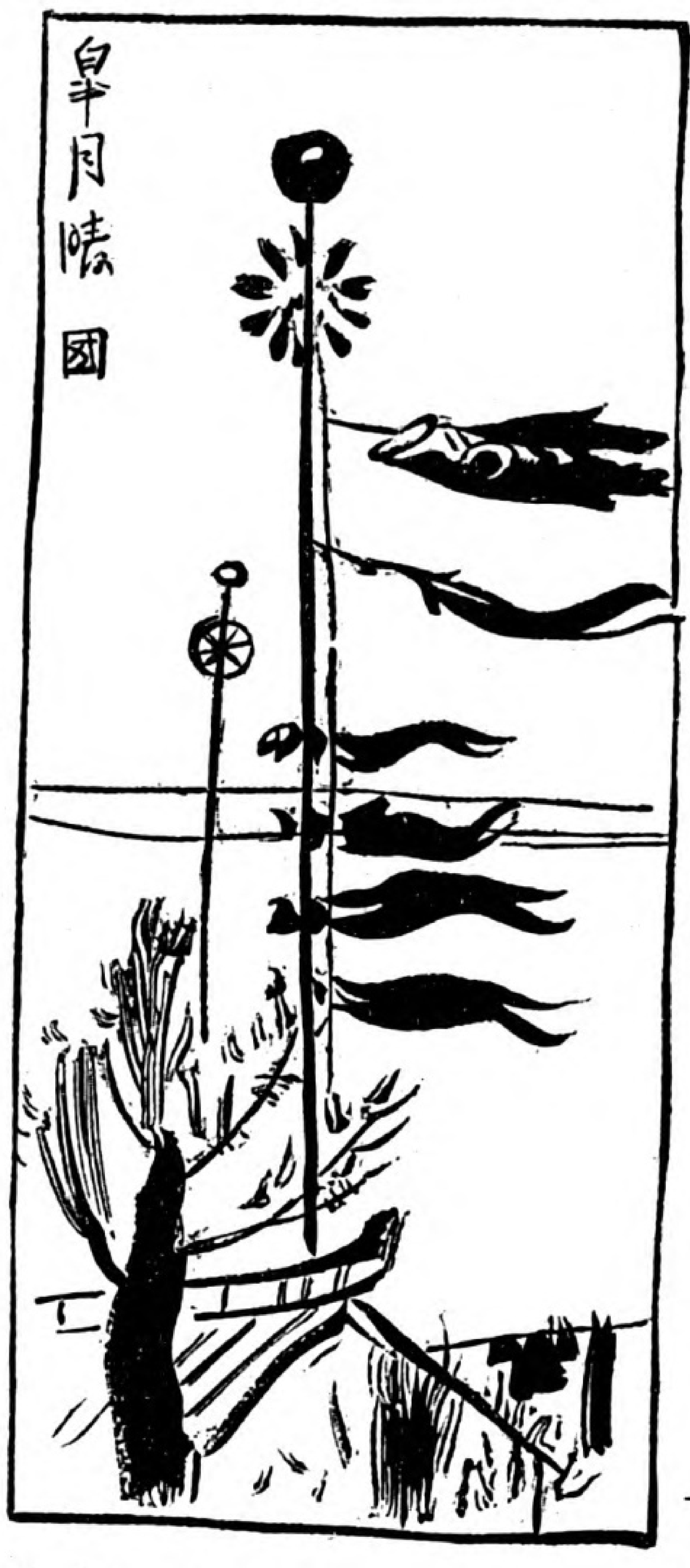
開所式の際、十四歲を頭に十歲の遺子は、絣りの木綿の着物羽織に、小倉の袴姿凛々しく、二列に並びて、佐藤將軍の指揮の下に、恭しく來賓に對して一揖したるの瞬間には、我等は實に言ふべからざるの感に打たれて、涙を禁ずること能はざりき。

凡そ人間の思ひにて、子を思ふほど深く切なるものはあらず。強敵と奮闘して斃れる痛手に、最後の息を引き取らんとする今はの一念は、實に大君の萬歲と、我等の目前に居並べるその子の將來とにありしなり。彼等の一揖して擡げたる顏には、父の雄々しき面影あり、勇ましき決心あり。安んせよ、泉下の靈。彼等は父を恥しむるものにあらず。民に愛國の至誠あり、世に同情の熱涙ある以上、彼等は、見棄てらるゝものにあらず。再び言ふ、我等は多くの式なるものに列したり。されど此の如くうるはしく、悲しく、嬉しく、教訓多く、しかも嚴かなる式に遇ひたる事なしと。

軍人遺子の教養所は此の如くにして開かれたり。その今日に至るまで、彼等を保護養育せる地方有志者の厚誼は、誠に感謝するに余りあり、本誌前號附錄畵の如き、その一斑を示すものなり。世は澆季ならず、民頼むべく依るべし。本教養所に來れるものゝ外、なほ多數の遺子あるべし。我等は地方人士がその義氣と同情とを以て、その成人を見屆くるまで、彼等を教養せられんことを望む。その本教養所に來れる者に就きては、適當の指導者、監督者ありて、十分その目的を達することを疑はず、その責任は一に懸つて、愛國婦人會及び當局者にありといふべし。

最後になほ一の希望あり。そは他にあらず。戰死者の女兒を教養することこれなり。今般設立せられたる教養所は、男兒に限りて、女兒を容れず。佛國には、ナポレオンの制定せるレジョン、ドネールの勳章を有する者の女兒千人を限りて教養するの施設あり。巴里附近に三ヶ所の學校を設け、女兒を寄宿せしめて、その教養に任じ、卒業者は小學教員となるもの多く、又手藝に從事するものあり。また以て參考となすべし。我等は男兒教養所の隆盛を望むと共に、近き將來に於て、女兒教育所の設立を見んことを願ふものなり。

（正誤　前號社説の標題「若き少女の交際」は「若き女子の交際」の誤り）



地方大賣捌よりの愛讀諸姉へ

在來の地方大賣捌中
水戸　熊本　前橋　山口
以上四ヶ所を廢止致候間在來前記各所より愛國婦人講讀致され候諸姉は自今直接當發行所へ御申越被下候樣願上候

子供の犠牲になる兩親と子供を犠牲にする兩親

日本人ほど子供を可愛がる國民はないと云ふのは、屢ば外國人の口から出る批評である。が、何故、外國人の眼に、日本人が子供を他の國民より以上に愛するやうに映るかと云ふに、他家に呼ばれた時でも、散歩に出る時でも、寄席や芝居や活動寫眞のやうな興行物を見に行く時でも、到る處に、われ等日本人は子供を伴れて行くものが多い。これ等の狀況を側面から見て、外國人は日本人ほど子供を可愛がる國民は無いと、斯う速斷したことゝ思はれる。

成る程、歐米諸國と違ひ、夫婦を一家の本位とせずして、親子をば本位とする日本人のことであるから、歐米人以上に親子の間に親みのなければならぬのは事實である。が、親の行く處は、場處も選はず、子供を伴て行くと云ふことが、果して子供に對する兩親の眞の愛情であらうか。親が芝居好きである。だから親の心を以て子供の心を圖り、嘸や子供も面白からうと芝居に子供を同行する。しかし、子供心に親と同じ心に芝居を面白く見るか、何うか。甚だしきは子供が泣きわめいて嫌がるを強ゐて芝居を見せて居る兩親がある。斯ふ云ふのは兩親の樂みに子供を犠牲にするのであるまいか。この點に於て、深く世の兩親たる人々の反省を望みたいものである。

世には亦た、自分の爲めに子供を犠牲にすることなくして、子供の行末の爲めに其の身の快樂――否、快樂どころではない、必要な費用までも節約して居る兩親がある。斯くてこそ、他の國人にも倍して子供を可愛がる國民と云はれやうと思ふ。あゝ、子供の爲めに身を犠牲にする兩親！神々しき心操ではないか!!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議

我國婦人獨特の美風

宮川壽美子

日本の婦人の美風とは何であるかと申しますれば、種々の點がありまするが、私は第一に

▲犧牲の精神

を擧げたいと思ひます。

或る西洋人は、日本の家庭には二人も主婦が居つて、それで圓滿に家庭が治まつて行くのは不思議であると申しましたが、如何にも昔から仲の惡いと云ふ姑と嫁とが一家に住んで居つて、平和に暮して行くと云ふことは、鳥渡不思議のやうに思はれませうが、其處が我が國の婦人の忍耐即ち一家の平和の爲には如何なる辛苦艱難をも忍び、義理の爲めには喜怒哀樂をも愼むと云ふ要之我身を一家の犧牲にするといふ精神を婦人が持つて居るからであらうと思ひます。

▲我國家庭の根本は親子

申すまでもないことでありますが、西洋の家庭と我が日本の家庭とは其の成立を異にして居ります。

西洋では夫婦を家庭の基礎に置きますが、我國の家庭の根本は親子であります夫婦を根本とすべきものか、親子を基礎とすべきものかの理論は暫く措いて、我か日本では親子別居などいふことは現在は勿論ですが、近き將來に於ても容易に行はれることでは無からうと思ひます。從つて、この美風は今後も益々持續して行きたいものと思ひます。而もこの忍耐とか辛抱とかは獨り家庭を圓滿に治めて行くばかりではなく、兒童教育などにも多大の感化を及ぼすのであります。

▲兒童感化の一例

を申しますれば、私の知人に八歳と五歳の二人の娘を持つて居る奧樣がございますが、或時五歳になる妹の方は母親に向つて「妾が大きくなつたら、御祖母樣には被布を買つて上げて、お母さんには甲の上を取つて上げませう」と申したとのことでありますが、これは八歳になる姉の方が小學校に參つて居るのでありました。で、その成績の中に甲の上とあれば奧樣のお喜びになるのを見て、小供心にも母親を喜ばせやうとの心から申したので御座います。

これを見ても如何に母親の一擧一動が其の兒童に感化力を與ふるかゞ判りますが、先年日露戰爭の折にも、或西洋人は日本人の强いのは教育に依るといふが、多くの兵士は悉く教育を受けたものばかりでもあるまい。中には無教育の者もあるだらうに、一人として、命令に背いたり、卑怯な者の無いのは不思議であると申しまして、段々調べた所が、遂には其原因は家庭に在るのであると申しましたが、私も實際それに違ひないと思ひます

▲祖先崇拜の美風

次に第二の美風は何であるかと申しますれば、祖先を崇拜すると云ふことであります。

朝早く起きて身體を清め、神前又は佛壇に向つて拜すると云ふことは、自分よりも以上の人格を拜することを教へて、品性の修養に益あるばかりではありません。家名を重んずるといふ精神を起さしむるに預かつて力があります。

英國でも家族禮拜と申しまして、中流以上の家庭では大抵の家で、毎夜八時半乃至九時頃には、家内一堂に會して祈禱を致します。嬰兒を寢かすにも母親は祈禱の歌の樣なものを教へながら神に祈るといふことをさせます。

子供が一人寢を寂しがつて泣くやうなことがありましても、日本の樣にチュウチュが來るの、ニャアニャが出るのと云つて、兒童を欺いて怖れさせることはしないで、神樣に祈つてあるから何にも怖れることはないど云ふて聞かせる樣にして居ます。

其他三度の食事の時にも祈禱をしますが、何れも神を忘れぬと云ふ、言ひ換へますれば品性の修養のためにするのであります。さう云ふ風でありますから、我が國の美風たる敬神拜佛のことは怠つては不可と思ひます。

(成女高等女學校に於ける講演一節)

家庭と宗教

文學士　鈴木暢幸

宗教と云ふ字義に就いて、私は其源に逆上らずとも、この字のまゝに宗は么ネ即ち中心の意味にて中心教と解釋したいと存じます。士農工商、貴賤男女、それ〲職業地位の異るに從つて異る教の道がありませうが、併し共通に人間たる以上は誰でも奉ずべき道は必ず一つ無ければなりません。私は、それを宗教と名づけたいと思ふのでございます。その教が甲の人と乙の人とで違ひ丙の國と丁の國とで異るといふ樣な事ではなりませぬ人間の在る所、洋の東西を問はず、確立不動の者でなくてはなりませぬ。もしこの資格ある教ならば其名が何であらうと其教主が誰であらうと、それは一向好き嫌を云ふ必要もない事でありますが、さてこの資格ある教はと申しますと、まあ差當り佛教と基督教との外にはありますまい。尤も基督教と申しましても、これを説く人に依りまして、この資格を外れて居る者もございますし、佛教とても今までの日本宗派は、千年以上もこの孤立した嶋國に限られて居たお蔭で殆どこの資格を失ひかけて居りますから、兩方とも此儘直にとは言ひ兼ねるかも知れませぬが、本來の性質は實に立派なものと、竊に喜んで居る次第であります。

いえ、私は俗人で宗旨には何も關係はありません。基督教のことは餘りよく存じませんが、佛教は多少覗ひまして、今の佛教各宗の有樣の、多く教主釋尊の精神に戻つて居る事をつく〲感じて居る者でございます。昨年でございましたか相州のある旅館で基督教の夏期講習會が開かれまして、餘程大勢の人が入り込んだとか申して居りましたが、其後私が其宿屋の女中にどんなであつたと聞いて見ました所が、女中の言ふには、妾耶蘇は信じたくもありませんが、あゝ云ふ優しい御方々ばかりなら、ほんとに御交際を頂きたいと思ひますと云ふのですね。

宗教は全く其處だと存ずます。宗教のきことは、其教を受けない者にまで感化を與へる程のものでなくてはなりませぬそれは人間共通の動すべからざる根底の上に立つて居るからであります。口に神を唱へ身は何々信者だと申しましても、この根底の上に立たない者は、決して宗教を得たとは申されません。

この意味から申せば私共の眼中には佛耶の區別が無いと共に、區別を立てゝ意氣張つて居る多くの宗教家は、殆ど非宗教家と申してよからうかと思はれる位であります。

私の知つて居る人に、一人の熱烈な宗教家があります。其人の所へ色々な人が一體宗教とはどんな物かと詰問に來る事があるそうでありますが、其度に、何の答も云はずに、突然、君の家庭はどうなつて居ると反問してやると、大抵はそれでグット詰つて仕舞ふといふて居りました、眞に甘い筆法だと存じます。いくら世の中から偉いと立てられ、自分でも得意になつて大言壯語し、理窟をこねる人でも翻つて其家庭を見ると實に愛想の盡きる樣なのが有り内の事でございます。

これはその家庭に宗教が無いからでございます。己の一心に中心の教が無いと、主義が無いから貞操が立たず、行がばら〲で統一が無いから人格と云ふものが無く、位や富があつても、人としての價値が卑しい如く、一家庭に中心の教が無ければ親子兄弟から雇人までの間に統一が無く、自分勝手な了見を立てるから、何時でも隔意衝突を起して幸福は到底得られつこがありません。

よく御婦人の新聞や雑誌で家庭の不和に處する心得を御述べになつて居る方がありますが、宗教の力によつてと云ふ御話を見受けないのは何故でありませよか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本人と歐米人と相違の點

櫻井ちか子

私共が英語を學びました時代と、今日とは較べにはなりません。未だ其時分は學校と云ふ者はなかつた時代で、その頃亞米利加の宣敎師で名をカルザスと云ふ方が來られて、自分の家で英語を敎へて居りました。所が段々と英語を敎へて貰ひに來る人が多く成つて來て、自分の家では狹てしやうがないから別に家を造つた。夫が抑も學校の初であると思ひます。

面白かつたのは、まだ此時分には餘り澤山硝子が來て居りませぬから、人が珍らしがる時で、丁度窓の所に硝子が使つてあると、其處を通る人々が珍らしがつて、何か見せ物でもあるやうに、人が黒山のやうに立つて見て居ると云ふ仕末で今から考へて見ますと、隨分馬鹿氣た事があります。

其時分は男女混合で敎へて居りました。無論未だ其時はクリスチャン禁制の事でありましたから、英語は敎へてもよいけれどもクリスト敎を弘むる事は出來なかつた。其時分から來て居つた人であります。後にこれが女學校になつて築地の海岸の六番に其學校が建ちました。其頃に私も英語を習ひに參りました。

丁度夫が明治七年頃で、其時淺草に住つて居りましたから毎日淺草から通ひました。其人の英語を敎ゆる事の親切と申したら寔に、言葉には盡されない位、懇に敎へて下さいました。其人は丁度此方に七年間ばかりみへる内にすつかり日本語が出來るやうに成つて、私共や他の人と話をなさるにも少も困る事等はなく、どん／＼と日本語を以てお話をなさつて大變に此分の事情にも通じて寔に私共に取りましては此上も無い事でありましたが、いろ／＼と其後一身上の御都合が出來て亞米利加に歸らなければならんやうな、事情になつてお國にお歸りになりました。また其後は外の米國人が更つて、さうして其學校で引續いて敎へられました。けれども私は只今でもどうしても其親切に敎へて下さつた事は忘れる事が出來ませぬ。

其時に英語を一緒に學びました人は三十余名程でありました。兎に角其方が亞米利加に歸られてから丁度二十五年目に再び此方にお出になりました。その歡迎會を後樂園で致しました。無論此人々は皆敎を受けた人達ばかりで、男も女も合せて三十餘名程寄りました。さう致しますと先生は歡迎の席で日本語を以て色々とお話をせられました。二十五年前と二十五年後と少しも違ひはない。所が其時分先生から英語を習つた人々は大抵もう忘れて居る方が多ほ御座いました。私は先生が二十五年も彼方に歸つてみえたのに、何うして少しも忘れずに覺えて居られたかと不思議に感じましたから彼方で日本人と交際をなさいましたかと尋ねると、先生は餘り交際をする機會がなかつた。けれども始終本國に居つても日本の事を思ひ出して、皆さん方の事を種々と考へて居りました。又日本語の聖書や或は外の本を讀むで居つたと、云はれました。此話を聽きまして私は物事は總てこう云ふ風に心懸けて行けば、どんな事でも必ず其目的に達するに相違ないと思ひました。

まあ米國に限りませぬが、外の國に留學をした人々の話を聽きますのに、彼方の人は學校を出てからでも斷へず研究を續けて居る。が、日本の人は大抵學校を出て仕舞ひますと、夫々職務に就いたりして、又出來る隙があつても、さう云ふ方面に心を向ける人は至つて少ない。此處の點が彼方の人と日本の人とは大變に違ふのであります。

子供の骨骼と衣服（四）

東京女子體操音樂學校長　藤村豐子

▲子供と衣服の着せ方（下）

總て強き大なる動作をするには、強き大なる呼吸を要するは、生理上自然の作用にて、小さき呼吸をして大なる作業に從事することは、出來ません。漁業者や勞働者が、男女に拘らず、帶の緩るきを見ても、明かに此理を證することが出來ます。

加ふるに女子は、指先を使ふことは好むけれど、肩及び腕を使ふ遊技をば餘り好みませんのは何故でありませうか。決して之を以て女の德と考へてゐもなければ、又活潑なる遊を好まぬ爲めでもなく其原因は全く帶を緊縛して呼吸困難なると、又袖が長く重くして働き難きため、知らず識らず不快活に陷るが多い樣であります。近頃世間で衣服改良の要件として、下部の長く且つ纒るより、女兒の不活潑に陷るの弊を說く人あるも、是れのみならば、男女兒の活動に彼程の差異を生せざるべく、私は帶をゆるく結ぶことを第一の改良法として實行したいものと考へます。即ち世の母親たる人々は、男女兒に拘らず、衣服は、常に深呼吸を爲し得るやう帶を下げ、胸部に餘裕を存することに注意されたいものであります。

▲子供の體格矯正に關する實驗

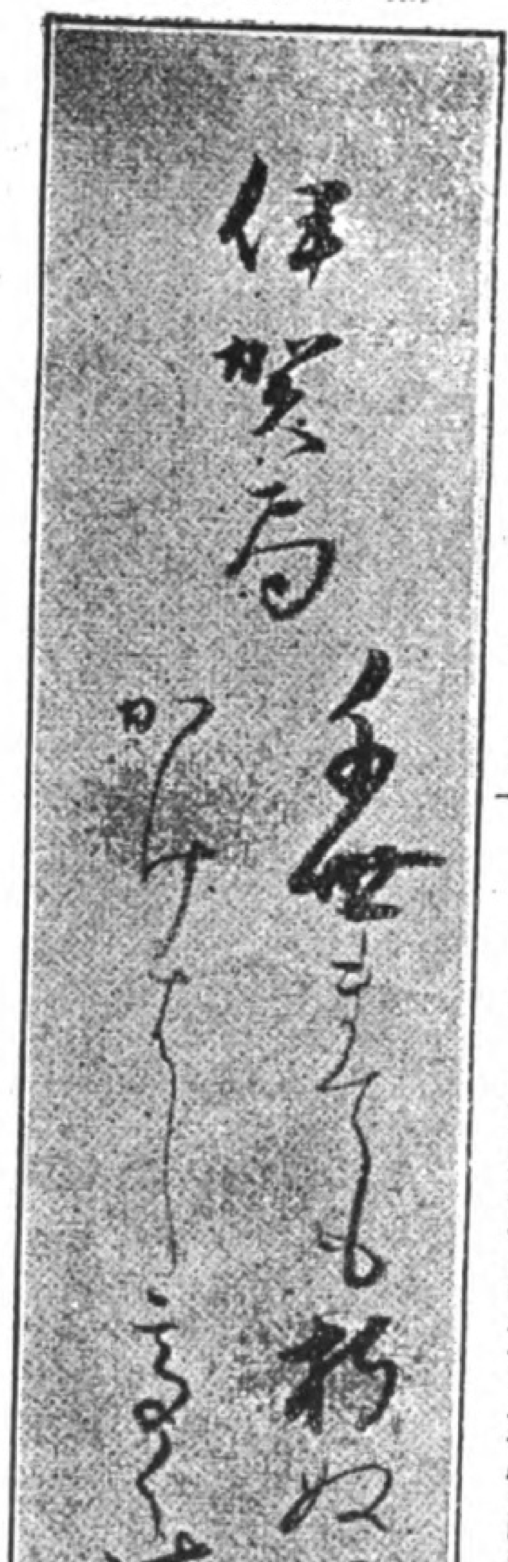
茲に私の實驗したる一例を申上げます。私の弟が以前に鳩胸でありましたが、それは確かに遺傳ではなかつた樣です。多分初生時に紐で胸を緊縛したる結果かと思はれます。何分鳩胸の爲め胸廓狹く、冬季になると始終感冒に襲はれ、痰の爲め呼吸の困難を來し、屢々睡らずに抱いて夜明しする事もありました。醫師の診斷では、胸部の發育不完全なれば、滿足に成長が出來ないかも知れぬとの事でありました。私は非常に之を不憫に思ひ、どうかして胸部を完全に癒して遣りたいと種々苦心しました。幸ひベルツ博士のお話を聽きますと、子供が十三四歲までならば、呼吸運動を以て胸部を廣くし鳩胸を癒し得るといふ事でありますから、直ちに學校に依賴して精々呼吸運動を施して貰ひました、學校でも私共の意を諒とし、研究的に種々盡力をして呉れましたが、併し學校の運動時間は、一週に二時間若くは三時間位に止まり、到底二年や三年間で癒る見込が立ちませんでした。

之は弟が丁度八歲の時でありましたが私は我家にて製鹽業に從事せるを幸ひ、弟が小學校より歸りますと、毎日二三時間づゝ製鹽の手傳をさせました。製鹽業は專ら海岸にて行ひ、大人は一日八九時間深呼吸的の勞働に從事するのであります。弟等は肢體軟弱なる事とて、業務の方では却て下男等の妨碍をした位でありましたが、發育上に於ては甚だ好成績を收め、二ヶ年半許を以て遂に鳩胸を癒しました。結局弟の鳩胸を癒すためには、五ヶ年の日月と種々なる工夫とを要したる次第であります。が、今は中學の三年生で、運動ならば他に讓らぬ位に健全なる身體になりました。如恁弟の虛弱なる身體は、運動と作業とを以て矯正し得たのでありますが、當時は私も弱身で、未だ運動にはあまり興味を有せざりし時なれば、體操で癒すといふことは出來なかつたが、今日より考へて見ると、無理に作業に從事せしめずとも、作業的に深呼吸運動を行はせたならば、確かに同一効果を奏し得たる事を信じます。

私は毎に體操を行ふたならば、若干の時日を以て、體格の矯正が出來るかといふことを、十分實驗して見たいと思ふて研究して居ります。（をはり）

當代名家選

黒田清綱翁



今泉定介大人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

女傑タフト夫人と其家庭

柳江

白堊宮の主婦として、大共和國の國母として、米國八千萬の民草に主事さるゝ位の婦人なら、尋常一般の女性でない事は勿論である。クリーヴランド夫人然りマッキンレイ夫人も然り、ルーズヴエルト夫人然り、今度の大統領夫人ミセスタフトも亦然らざるを得ない次第である。「平凡」は到底ウヰリヤムの忍ぶ所にあらず」と現大統領の幼少の時其父が豫言した位の人物であるからタフト氏も非常の英傑なるに相違ないが、世間の評判ではタフト氏の今度の最高地位を得たのは全く其夫人の皷舞奬勵與かつて力ありといはれて居る。タフト夫人は主人の友人なる國務卿ヘイ氏との關係にて屢白堊宮を訪れた時、人生れて白堊宮の主婦たらずんばあるべからずと、早く既に決心の臍を固めて居つたとの事である。若し夫人に此決心がなかつたなら、ウヰリヤムタフト氏は僅に大審院の一椅子を占めた丈けで終つたかも知れぬ。

タフト氏の大任を帶びてフイリッピンに渡つた時、夫人も亦同行し、始終內助となり、慰藉者となり、全身全力を注いで國事に盡瘁せしむる事を得た。彼の有名なる米非協約は實際上夫人の如才のない交際の結果であるといはれて居る。

タフト夫人には三人の子供がある。長男はロバルト、アルフオンソ、タフトにして十九歲、目下エール大學にあり、卒業後はハーヴアルド大學に入り、專ら法律を研究せんとのことである。末子はチャーレイス、フエルプス、タフトにして十二歲目下、コネーチカットの中學校に學んで居るが、矢張り長男と同樣法律を修めさするとの事である。夫人の最愛の令孃はミスヘレンタフトにして妙齡方さに十七歲、ブリンモールの大學にあり、成績優良の件を以て同校の奬學金を得た程である。タフト夫人の野心は令孃の卒業を俟つて、早速白堊宮の社交界に紹介して交際社界の花形になさんとの事である。

何樣タフト夫人は、合衆國民の國母として仰がるゝのみならず、三人の子供の母親として彼等を敎養し彼等の絕對の信愛を得て居る。人の母親となり絕對の信愛を得んとするには、其母親なる人の品性に於て欠くる所があつてはならん。タフト夫人は、虛飾なく、輕佻なく、徹頭徹尾眞率實意である。それで初めて夫人に接するものは、其態度の如何にも冷淡に見えるけれども、漸く交際するに隨ひ其人物の益々敬愛すべきものあるを見るべしと斯う云つて居る。

米國大統領夫人と其令孃
MRS. WILLIAM H. TAFT AND HER DAUGHTER.

造花の栞

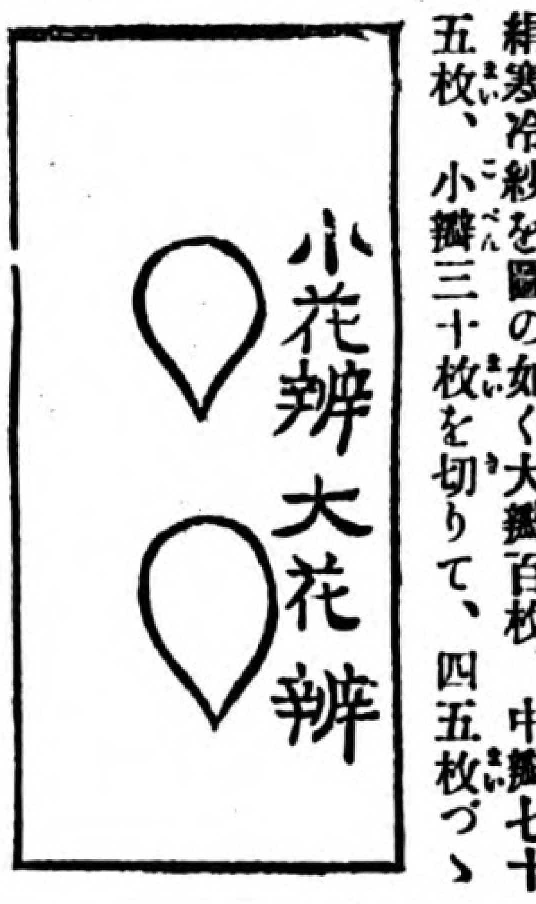
田村しな子

文化日に月にすゝみて、敎育の洽及らざる地なし。誠に慶ぶべきことなり。されど獨り藝術に關しては、古來深く篋底に秘められて、凡く語るを欲せざるが如し。些か此の缺陷を補はむとて茲に本誌をかりて、同好の子女と共に大いに硏究の効を積まむとす。熟ら思ふに、邦人指頭の技藝に長じ、美術の精神に富めり。天孫人種が大和遷都以來夙に此の特長を發揮し來り、奈良平安朝に至つては、其の刺繡の如き、造花の如き、今日にても遙かに其の技を慕はしむるものあり。我等之によりて優美なる趣味を得ると共に之を粧飾と實用とに供せむとす。まづ造花より初め次に刺繡、摘み細工、袋物について述べむ。

梅花

梅には種々樣々の形及び色彩あれど、まづ八重の紅梅の製法について話さむ。絹寒冷紗を圖の如く大瓣百枚、中瓣七十五枚、小瓣三十枚を切りて、四五枚づゝ重ねしまゝ、ピンセット（總て花葉其他を摘むに用ふ材料店にあり）にて摘みて水に浸して、水より出し輕く指先にて絞りて造花用染料（造花材料店にあり）のマゲンタとローダミンを混合して（前者は多く後者は少く）湯にてとき液にて染めて反古の上に出し、日陰にて干すべし。瓣鏝（材料店にあり、一名梅鏝）を火鉢にあたゝめて、前の花瓣の心持ち濕り氣のある頃を見はからいて、四五枚づつ重ねて鏝臺（小き座布團の如きものを作るべし）の上にて鏝を當つべし。中瓣は大瓣より深く、小瓣は中瓣より深く即ち、凹む樣に當つべし。姬糊を固く煮て糊板の上に糊篦を以てよく粘り固過ぐる時は、篦に水を少しづゝ增すべし。而して五厘位に淡く平にのばし、萼を開きて上に置き、それを取りあげて、開花は大瓣五枚づゝ二廻りつけ、其中側に中瓣五枚をつけて十輪の花を作るべし。半開は中瓣五枚小瓣三枚をつけて五輪を作るべし。小半開は、たゞ小瓣三枚をつけて、手にて輕く蕾ますべし。開花も半開も小半開も皆それ〳〵蕊（材料店にあり）を附すべし。蕾は花瓣を染むる時、寒冷紗を三寸位花より少々濃いめに染め置き綿を入れて圓くカタン糸にて括りて、其端を切り捨て花と同じく萼を附く。大小合せて十五個位にてよし。

仕上法。花も蕾も乾きて後、鐵の針金（材料店又は金物屋にあり）を板の上にて木片を以て、よくころばしながら、のばすべし、それに日本紙（反古にてもよし）を卷きて、肥後竹（材料店にあり）と共に技の心となす。靑美濃紙（材料店にあり）を三四分の中に切りて、前の心に花蕾を程よく取り合せて固く卷きつけて仕上ぐるなり。



▽記者申す、田村しな子女史に就て造花の指南を受けんと望まるゝ方は、下谷區谷中三崎町十一番地の同氏に宛て、詳細を問ひ合せらるべし

文苑

をりにふれて

三重　中島千萬子

過し年より筆をすてたるおこたりを、つまはじきせられ給はんと思ひつゝ、我が親しめる文園に見えざりしは、其夏のころより病ひにかゝりうちふしぬ。夫はある會社又は他の務をも勤め、いと〳〵ことしげく日を送り、獨りの男の子は東の學び舍に入らしめて勤學しつるなり。ころは夏の休なれば我家に歸り來つるをりとて、友人或はさま〴〵の客人あり。事繁き家居に病みふしつる身のこゝろくるしさをくみとりたまひてや、何事もうちすて心しづかに加養せよと夫のなさけ男の子の孝養おこたりなく、朝夕かしづきつることの嬉しさは何にたとへんよすがもなかりけり。あさからぬ心つくしをうけしによりてや、秋風の立初しころに病ひおさ〳〵いえにけり。

いざ是よりは專一に家事に心をゆたねうけえし夫のなさけの萬分一をむくははやと思ふをりから、男の子の未來の妻さだめも始まり、夫は勤務のかたはら去年より人々と計りて、三重のあかたにては今尙ほ新らしき製氷事業の株式會社をおこさんとするに猶々事繁く、又外の會社よりも相談をうけ、或は他の事にも從事しゐる事とて其忙しき事云んかたなし。

我は病ひのためとはいひながら、いたつらに日を送りし事の罪いかばかりぞや此罪を償はばやとて、たとへ家事に少しのいと間はよしありぬるともおのか好める樂みの筆は夫の事業成立なし男の子の妻もさだまるまで心にさかひをたてゝしばしうちすてたりき。嬉きかな、夫の身に負ふ事々いづれも昌へ製氷事業は好結果を得、男の子の妻も約束さだまり互の往來も都合よく相濟たり。たとへば笑を含める蕾みの花をえし心地こそいと〳〵嬉しと筆に依せ過し怠を申解けるになむ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

譚叢

酉の年に因んだ鶏物語

文學士　原　篠川

獨逸の或村に、後家さんが一人棲んでゐましたが、非常に勤勉な人である上、今年は一つどつさり反物を織らうと思つたので、一番鶏で眼を醒まし、二番鶏で下女等を起して、火を點けて糸を紡がせてゐました。所が下女等は此んなに早く起されるので、何うかして之を免れたいと思ふて、

甲「ネー、何うしたらも少しゆつくり寢てゐられやうネー」

乙「ほんにさ、何うしたら善からうネ」

甲「妾は斯う思ふわ」

乙「え、何う」

甲「之は何でも内の鶏奴が居るからだから……」

乙「惡つくい鶏ねえ、早くから人を起しやがつて」

甲「だからさ、いつそ彼奴をないものにすれば、屹度婆さんは覺えず寢過して仕舞ふのよ」

乙「ほんとに然うだつたねえ、何うして其處に氣が付かなかつたらうねえ」

可愛想なのは鶏で、何の罪も咎もないのに、遂に下女等二人の毒手に罹りました。二人の者はもうしめた。之からは枕を高うして、朝晏うまで寢てゐられると思つたが、之が抑の大間違ひ。目敏いのは年寄の癖で、今は時を告る鶏も居ず、晏い早いも見界がつかなくなつたので、時には夜半頃から目を醒し、さあ〱起きたり〱で、二人の下女をたゝき起し火を點して糸を紡がせるやうな事が多くなりました。下女等は吃驚仰天して、之ではならずと又もや臺所會議を開いたが、其の結果として自腹を切つて、以前のやうに鶏を買うて、主人に献納する事に致しました。之から後は二番鶏〱で、起されては働いて居りましたが、一度懲りては叛亂氣をも起さず、遂には習ひ性となつて、朝起にも餘り困難を感せぬやうになり、おまけに紡績までも敎へこまれたので、年經つて外へ嫁入つてから、却つて今迄の主人に對して、厚く御禮を云うて來たと云ふ事であります。

＊　＊　＊　＊

此處に又同じ獨逸の或所で、鶏と犬とが道連となつて、物見見物に出かけて行きました。所が然る森の中に來かゝりますと、一軒の宿屋も見付りませんので、犬は檞の木の心空になつた中に寢る事に決めますと、鶏も其の枝の上に飛び上つて、御互に眠つて仕舞ひました。さて夜明となつて鶏が眼を醒し、何時ものやうに晨を告げますと、之を聞き付たのは、間近に住んでゐた古狐で、こいつい丶鳥がかゝつたと思うて、親切げに其の側にやつて來て、

「これはお早う、ほんとにお久し振りだねえ。何の御用で此方へ御出でだ……。が、見受ける所朝飯は未だのやうだが、何うです、僕の所に來て、一緒にやつては隨分甘しい下物もあるんだが」

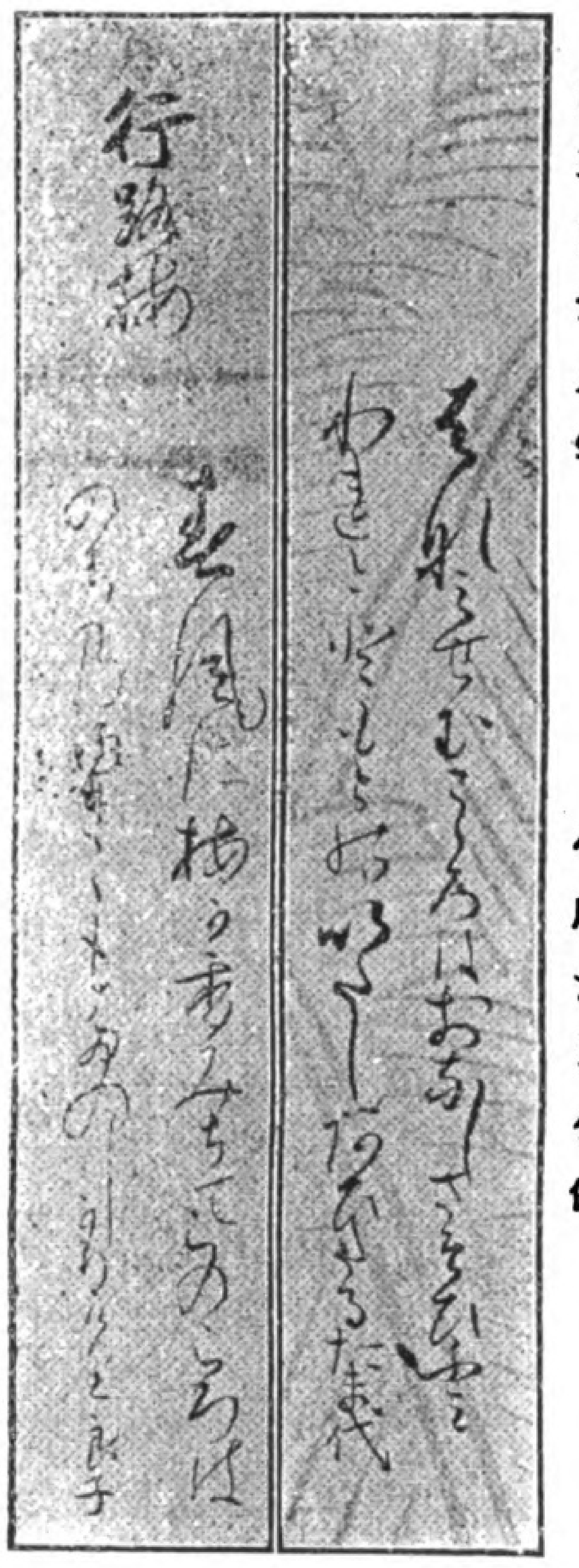
聞いて鶏は心の内で、早くも相手の惡心を洞察し、其氣なれば却つて敵の謀の裏をかいてやらうと、

「之は實に有難いです。君が親切にさう云つて下さるなら、一つ御馳走になりたいものだが、も一人友人が未だ寢てゐますから、何うか起して見て呉れませんか」

之は甘い。も一疋鶏が居るのだなと思ふて、狐が檞の根方に寄つて來ると、最前からもう眼を醒して、首尾始終を聞いて居た例の連の犬が、突然飛び出して、その喉首に喰ひつき、振つて〱振り殺したと申ます。人を咀はゞ穴二つとは、全く斯んな事を云ふのでありませう。

閨秀百佳選

阪正臣大人筆



今泉定介大人筆

お伽小說

妖魔の森

神谷つくば

小尾たま代作

(六)怪物の手紙

霧の中から現はれたのは、獅子のやうな顏をして、然も身體は野牛の年を經た者のやうな、一種異様の怪物です。

老貴族は駭いて逃げやうとしましたが電氣を掛けられたやうに、五體すくんで動く事も出來ません。

『助けて呉れ！』

仕方が無いから老貴族は、怪物に手を合せて頼みました。

一握みに飛び掛り相な容子をし乍ら怪物は、口に啣へた者を、老貴族の前に落しました。

不審に思ひ乍ら開いて見ると手紙です菅家流の達者な筆蹟で

親愛なる老貴族閣下。折角の淸遊を妨げ、重々恐縮には有之ども、予は閣下の聽許を得て、閣下の最愛なる令孃と結婚せん事を欲す。幸に快諾あらん事を。頓首。

と書いてあります。老貴族は以ての外と、心のなかに憤り乍ら、

「無理な事を要求しては不可、今日許してさへ呉れば、必度其だけの御禮はするから」

と頼みましたが怪物は如何しても聞きません。承知しなければ、今にも攫み掛り相ですから、老貴族は仕方なく、約束をしました。

怪物は喜んで姿を匿すと、霧も又晴れましたので、此様な處に長居は無用と急いで歸りました。

(七)約束は破れぬ

五人の娘は父の歸りを迎へて、肩だの手だのに纒り乍ら、森の話を聞きますので、一切話すまいと思つて居た老貴族も詮方なく、今日の一伍十什を話しまして

「誰か遣らなければならぬが、構はない當分知らぬ顏をして居やう」

と安心させる爲に申しますと、娘達は

『まア好かつた』

と喜びましたが、一人今まで默つて聞いて居た五人目の末子は、

『お父様！譬へ先が怪物でも、一旦約束をして歸つたのですから、此儘嘘を附いて仕舞ふ譯には參りますまへ、それに元はと云へば私が花を好むので、お父様も私の爲に森の中に這入つたやうな者ですから、誰の爲でもありません私が怪物の處に參りませう』

思ひ切つて申しましたので、老貴族は何も其様に怪物などに、約束を重んじなくたつて構はぬから、と申し聞せましたが末子は

『譬へ怪物でも何でも約束を果さないのは、好い事ではありませんから』

と立派に申すので、老貴族も心配し乍らも結局許しました。

(八)神々しい末子姬の姿

末子は直ぐに身仕度をして、唯た一人で森の中に這入りました。すると何處からともなく、美妙な音樂の音が聞えるので、知らず〱引き寄せられるやうに、其方に歩いて行きますと、今まで聞えた樂の音はパツタリ止んで、今度は先程と同じ様な花の香が、末子を迎へるかのやうに薫つて來ました。

花好きの末子は漸々引寄せられるやうに、其方に行くと、先程老貴族が怪物に出逢つたと同じ花園に着きました。

靑い花や、紅い花も前と同様に色香を競ふて咲き亂れて居るので、末子は欣んで怪事の事も忘れて、花を摘んで居りましたが、暫らく立つて不圖、自分は怪物の處に來たのだと云ふ事を思ひ出して、急に心細くなつて仕舞ひました。が其も長い間ではありませんでした。

怪物は末子の來た事を知つて出て參りましたが、綺麗に咲き亂れた紅や紫の花の中に、美しい末子が坐つて居る姿の、崇高い有様に近寄る事も出來ないで、直ぐに歸り掛けました。

(九)水晶の城廓

末子は見え隱れに怪物の跡を附けると斯くとも知らぬ怪物は、岩の上を飛び越え、樹の根をくゞり、洞穴を通つて、暫らくして立派な城廓の中に這入りました城は金銀寳石を彫刻めた水晶の建物で上の方は紫の雲が靉靆いて居るので、好く判りませんが、高い大きな構へだと云ふ事は一寸見て判ります。

怪物は中でも一番佳い室に這入つて寢てしまひました。

末子は見る物凡て珍らしいので、恐々其室に這入つて、怪物の傍に腰掛けました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

觀櫻御會

天皇、皇后兩陛下には兼て仰出されし如く去月二十七日午後濱離宮に内外の臣僚を召させ給ひ觀櫻の御會を開かせ給ひ御宴酣なる頃、艷陽の好時節に際し卿等と此樂を偕にするを喜ぶとの意味の御諚ありと、此日御宴に列するもの皇太子殿下同妃殿下、各宮殿下を初め奉り內外臣僚二百餘名にして天晴れ風暖かに咲き亂れたる八重櫻其他數限りなき花卉の得も云はれぬ風情は實に泰平の御代の感銘をして一層深からしめきと傳へらる

土耳古の騷亂

我國では泰平の御代を壽いて居るのに扨ても氣の毒なは土耳古である。土耳古の都君斯丁堡では大騷亂が起り軍隊が活動し發砲が開始され立憲軍と王軍とは盛んに戰鬪を續け立憲軍は去月廿六日を以てキヂッツ王宮附近の丘陵を占領し尚續いて要塞を占領し王軍の死者ばかりでも二千名に達し皇帝は立憲軍の捕虜となられたと云ふことである。此大騷亂は去廿五日に始まり土都では戒嚴令が布かれ列國は同國滯在の安寧を保護する爲め何れも軍艦を派遣しダーダネルス海峽に迫つて居るとのことである。扨ても恐しいことである

土都騷亂の由來

何故斯る騷亂が土耳古に起つたか、その由來を知りたいと思ふ方が多からう。土耳古は人も知る有名な專制國であるが爲め往々虐政が布かれ制度法令悉く皇帝の思ふ儘であるに時世の進歩は斯る專制を喜ばぬ進歩した考の國民を多く出すやうになつた政府は夫れが氣が氣で無い。爲めに數百千の間諜者を出して國民の行動を監視させて居る。其處で三人以上話をして居ると屹度諜者が付く。其諜者が有る事無い事を報告して罪無くして牢に投せられるのは珍らしいことでない。しかも諜者の付くのは國民ばかりではなく顯官のものにも附ける。斯く諜者が多いので終にはお互に誰が諜者であるか分らぬ有樣で始終口を噤むで居なければならぬ。斯樣に苛政を布くので國内に居て相當の智識を有し又外國の書籍でも讀んだ者は自國の暴政より逃れやうとする。如斯暴政の下には一日たりとも氣概のあるものは棲んで居れない。で血涙を揮つて外國に逃れて行き一種の亡命客となるものが多く他面には皇帝の御勘氣に觸れて高位高官の者で外國に逐電するものも多いのであつた。

自然の結黨

斯く外國に逐電するものの中には大將もあれば中將もあり畏くも皇族方もある。外國へ行けば內地に居つた時にもまして同國人懷しくなるのは人情である。殊に暴政より逃れた氣概ある青年が多いので、かゝる血氣多き輩は盛んに是等の高官を訪問し自國の苛政を論じ、何うかして立憲政體を布きたいといふ決心と隱謀とが密々の間に行はれると云ふやうな改革論の持上つて居たのは實に廿五年も前のことで其內に年を經るにつれて人數も加はり主義も強固になり自然に黨が結ばれ青年土耳古の名さへ冠さるゝやうになつた。

土耳古皇帝

扨て一方では不幸侵入軍の捕ふる所となり或ひは近き將來に一天萬乘の帝位を讓らせられねばならぬやうになつて居る土耳古サルタン皇帝は如何なる御性情の御方で渡らせらるゝかと云ふに、頗る御聰明なお方である。で前記青年土耳古黨が掌握するに至つた政權の下に虛位を要して居らるゝに忍びられない、一朝立憲政體を布くと共に非常に物足りなく又心淋しく感ぜられて立憲政體の打破を企てられた。御齡六十八歲に渡らせらる、サルタン皇帝は斯く一旦憲政を布きながら勝手に之を蹂躪して幾年間かのうち其權力を振れた

土國の二派

元來土耳古には前記の青年立憲派の他に保守黨とも云ふべき純皇帝派と云ふものがあつた。これが過去三十年間陰に陽に對抗し來つた皇帝派の方には主に貴族僧侶が居つたであるから一方政治上の爭ひのみならず宗敎上に於ても爭ひが出來た

季節向流行の御婦人洋傘
神田一ッ橋通町山田洋傘店は卅餘年間其の業に從事しつゝある屈指の老舖で既に貴婦人大家の御用を蒙る事年久く品の堅きは現在好評を博しつゝあるのであるが本年は今一層勉勵して流行品の卒先者たらんとの意氣込にて大車輪大勉强する由御用の節は電話か葉書で御一報次第早速品を御屆します又御進物には商品切手が有り此の五月十日迄聯合賣出し中は五拾錢毎に福引券を送呈すると云ふ因に電話は本局二三五二番なりと

基督とマ教

此宗敎上の爭ひが仲々激しいもので、保守派の方は飽までマホメット敎を唱へ基督敎を排斥しマホメット敎に屬する僧侶が非常の勢力を有して居る、現に三十四年前マホメット敎を奉せずと云ふ理由で十二萬のアルメニヤ人が虐殺されたことがあつた土耳古今回の變亂の由來は此邊から出來たことで以上記したことを讀み味はゝれたなら大體はお判りのことゝ思ふ

葡國の震災

土耳古には前記のやうな騷ぎがあると思ふと葡萄牙リスボン府附近では激しい地震があつて家屋の倒潰したもの仲々多く死者三十九名負傷者百名行衛不明のもの百二十名もあり又リスボンでも激しい地震があつたとは誠に恐しいことである

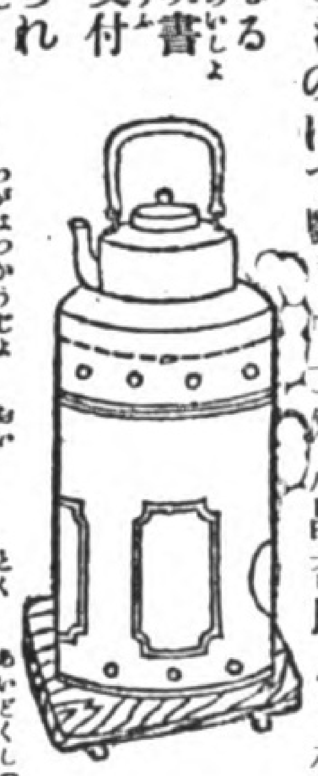
花蹊女史の賀宴

跡見花蹊女史は天保十一年四月生れにて當年七十歲の高齡に達したれば去月八日女史の經營せる跡見女學校創立三十五年紀念會を兼ね古稀祝賀會を開かるべき筈なりしも都合にて本月九日午後一時より日本橋倶樂部にて擧行することに決し當日は約二千名の貴夫人令孃が會合すると聞く

哺乳器に就て

前號佐々木式安全哺乳器とお伽らんぷとのことを紹介したるが哺乳器は左圖に示せる如きものにて今回竹田宮より御用仰付けられしと云ふ、又お伽らんぷも別圖に示せる

如きものにて醫學博士瀨川昌耆氏より有力なる證明書を交付せられし由なるが我發行所に於ても特に愛讀者の求めに依りては紹介の勞を取るべし



地方の出來事

▲小樽　去月廿七日午後七時手宮町より出火七百餘戸燒失同九時色内町より出火十九戸燒失せり▲宮城縣下本吉郡横山村より廿七日發火四十六戸燒失▲名古屋　葵町なる紡績工場より廿五日午前九時四十分發火全部燒失損害高十萬圓以上なりと云ふ▲以上の外小火地方に多し警戒が肝要也

御園化粧品目錄
畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛高貴御化粧料
長谷部仲彥氏發明
御料 御園白粉

煉製 御園白粉　濃化粧。顏ゑり用ねりおしろい。純白。淡紅色　壜入金二十錢。金三十五錢。金七十五錢　特製金廿五錢。金五十錢。金一圓。金三圓
樂屋用 御園白粉　舞臺化粧用。濃化粧專用固煉おしろい　小器金四十錢　大器金七十錢
との粉色 御園白粉　舞臺化粧。用砥の粉代用肌色。固煉おしろい　壜入金四十錢　硝子器入金一圓
水製 御園白粉　薄化粧用。純白。淡紅色。水おしろい　壜入金二十五錢　大壜金五十錢
粉製 御園白粉　洋風濃薄化粧及顏なほし用。粉おしろい　純白。淡紅色　紙包金十錢。紙函入金廿錢。壜入金五十錢　かくし化粧用ポット付紙函入金五十錢
美顏料 御園クレーム　洋風化粧白粉下。かくし化粧下兼用　小器金貳拾錢　大器金五拾錢
濃化粧用 御園の蕾　舞臺化粧及素顏濃化粧專用白粉下　錫入金十錢
化粧水 『四季の花』　あれ性の人に適する化粧水　錫入金貳十錢　大壜金五十錢
化粧水 御園とき水　防脂質の人に適する化粧水　壜入金十五錢　大壜金五十錢
打白粉 御園なでしこ　懷中用顏なほし。あせどめ用。はや化粧　紙包金十錢　かくし化粧金十錢
香油 御園水油　髮の毛黑く。麗はしくなる水油　壜入金三十錢　大壜金五十錢
群芳 御園香精　ハンカチーフ用　純粹の花精のみを以て製したる　壜入金三圓　別器金五圓
化粧香水 御園の橘　芳香果精を以て製したる化粧用香水　大壜入金一圓
殺菌消毒 御園齒磨　長谷部仲彥氏多年の研究に依りて調製したる　壜入金二十錢　大器金五十錢

製造本舖 東京芝 伊東胡蝶園
發賣元 小間物化粧品問屋 東京日本橋區橘町四丁目 丸見屋商店 [長]電話浪花四四八番 振替貯金六五三六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

俳句

―（初夏雜題）―

内藤鳴雪選評

天　山陵の木の間に月の朧かな　東京　武田鶴子

評、錯して啼く鳥は何

地　千金の駒とめて見る櫻かな　東京　鶴岡登久子

評、草臺は灯ともし頃

人　揚雲雀投げし礫の邊りより　浦和　はな子

評、見ゐ限り麥の浪

秀逸

うつるもの皆美しや春の川　紀伊　土井千歳子
姫宮の御手に育ちし雛かな　東京　田島信子
花の雨吉野路に買ふ小笠哉　京都　千勢女
見し人の面影とめよ春の月　東京　鈴木榮子
盃に何の雫ぞ花むしろ　三重　莊司種子
花くもり笛ふく人や神の森　東京　中尾巍子
さくら咲く岡にころべば春の風　岩代　檜山楊子
吾妹子がまきし小麥の緑りなる　伊豫　中尾晴子
大和路に名所尋ねむ旅の春　下野　黒須菊子
ほの〲と君が笑顔や桃の花　下野　相馬八重子
春雨に庭木造りの小唄かな　岡山　西村濟子
釣せんと心動きぬ春の風　福島　中村てる子
光る風田鶴悠々と眠りけり　神奈川　森田田鶴子
のとかさや翁は獨り障子貼る　宮城　夏川あつま
紅梅の徑は寺へ拔けにけり　青森　竹林秋子
京人の晴衣を照らせ春の月　横濱　上杉らく子
爐ふさいで淋しき宵の歸雁哉　京都　露緒子
春雨にぬれても歸る男かな　岡山　西村昌子
緋桃さく椽に小猫の晝寢かな　大分　桂木靜子
はれ釣瓶床しき郷の柳かな　京都　内藤たつ子
花見して戻りに訪はん君が宿　岡山　清水梅子
春雨や眞盆の中の渡舟　横濱　板倉かすえ
春雨や經讀む僧の高調子　東京　芳賀りエ
一文の貯へもなし春の暮　熊本　竹下かしく
春の夜や月も心も朧なる　石川　篤子
一もとの菫の花も折られけり　京都　小草
花の香に醉ひて仰げば朧月　東京　中段富士子

短文

―（題隨意）―

△一篇百八十字以内
△住所氏名明記の事
△編輯局同人選評す

一等

ひとりごと　京都　露緒子

桃わらひ綿弓なる悠々の春の氣に匂ひいでゝ、我名はすみれと申しつ。朝夕の野寺の鐘も心からにや物思ふ種とはならで自然の御母の懷に安らかに笑みかたむけつ、さるからに或夜月のおぼろに詩人の杖にかゝりて、我は野川に漂ひぬ。流れゆく我身、落英と交々先を爭ひて浮ぶ、ふるさとの友垣を、胡蝶姫を偲びつゝゐれば拾はれぬ、少女の手。歌反古に包まれて春や昔の押花の今の身。

評、かくて遠からずして嫁ぐあるじの人知れぬ涙に、文殻と共に葬らるべきさだめならずや。

二等

田舍道　三河　山内經子

白と淺黃の染分け手拭、目深に冠つた田舍娘、身にまとふ着物は古びながら、こざつぱりしてゐる。すたすたと歩む、歩むにつれて肩の草刈籠がゆらゆら搖れる。斯して里川のほとりに出たとき、後から涼しい若い聲で呼んだ人、年は同じ位大方十七八であらう、今日は澤山刈つたねと後のが云ふと、ホヽヽと嬉しげに笑つた、夕暮の美しい雲がだん〲消えて二人の影が夢のやうに浮いて居る。

評、ありふれた材料なれど、何となく引きつけられる。

佳作

〇〇無題　香川　瀾高やす子

雲の色、山の影、草の匂ひ、花の彩、見る目涼しい夏は來た。青葉の森、時鳥ないて詩人の胸を躍す時は來た。入ッ口に葉櫻の風細う、笛も立つにふさわしい時は來たが、私は何となくなつかしい初夏の今日このごろあやめ薫る南の窓に、さだめない空想が無限につとけられる。

評、その空想は、どんなに美しい、華やかなものでせう。文章は例によつて批の打ち處もありません。

、、〇小金井の花　東京　佐野くに子

都の友とつれだちて、小金井の花をと思ひ立つ、天氣清朗風またなし、されど時期を惜しともよそにしのびがたくてか、雲かと匂ふ梢より、頻りに散る花びらや樹下の芝生にしばし憩へば、春風ゆるやかに秋に通ひうす紫の用水は、落花をのせて都へと流れぬ。

評、おもふどち手を退れての花見、いかばかり樂しかりけん。

、、〇胸　横濱　鈴木まつ子

なぜ私はこんなにはかないのでせう、世の荒波にもまれもまれて、幾とせのあいだ、人にいはるゝ事ならば、少しは心も……花もさかりの此頃、花が美しいとおもへば、それだけ心に悲しみが強くなつて參ります、限りある人の命ですから、このまゝ永久にわがむねの秘密もきえてゆきませうか。

評、胸の秘密が人の命と共に、果して消滅するのでせうか、秘密は永劫不滅です、葬られた位で消えるものでは無からうと存じますが、どうでせう。

、、〇友情　青森　小川濟子

今日はうれしい日曜日、それに好い日和です、お掃除もそこ〲に食事すまして、いざ張物にと取かゝる時郵便配達は、なつかしい友の便りを齎した。いつも乍ら美しい水茎のあと、やさしい言の葉、學校の樣子、裁縫のことまで、細々と認めてある、情深い友の心……うつくしい情に思はず涙ぐまれた。たまらなくなつて寫眞を見ると、いとしい姿がはつきりと眼に映る折から、張物の乾いた事をつげる母の聲に、ハイと快活に答へて立ちあがつた。

評、その涙、また美しき眞の涙なり。

、、〇自白　靜岡　濱田とめ子

或日左右共義足の癈兵吾家を訪れ、東京の自營會員なるが、何にても物買ひて給はれとて、筆墨石鹼など押し竝べ、尙印刷物を取り出して見するにぞ、いたくあはれに思はれ、物は買はで五十錢をば惠み菓など汲みてすゝめしが、翌日ふと新聞を見て其僞癈兵なりしを知り、口惜しき事してけりと、口すべらせて罰とがめられ、つい自白して物笑となりし事のまでも殘念さよ。

評、筆者のところでも兩三度同樣な目に逢いました。

、、〇夕の空　京都　小草

吹くともなく寒くない南風が、羽織なしの袖をなぶるいつも見なれて居る愛宕山が、ぼんやりかすんで何となう奧ゆかしくみえる、帶の模樣にでもしたいような雲が、しづかにうごいて居る、日は向ふの藪にかくれたが、一たいにオレンヂ色でましぶいほどそこらがあかるい、雲雀がどこかで鳴いて居るが、のどかな事太古の春のやうだ。

評、筆ものどかな春の野のやう。

、、〇雀の子　横濱　上杉らく子

長閑な日が庭に當て二三羽の子雀が竹垣の上で、美いちやんの唱歌と一緒に囀て居ると、急に「パチン」と云ふ物音、垣の下には鳥の羽ばたき、かけ寄つた美いちやん少時無言で、血汐に染つた子雀を見詰て居たが、涙ながら其處に葬つてやつた、親雀は毎日垣の邊に來て恰も子雀を呼ばる如くないて居る。

評、好個のスケッチ

、、〇のどか　越後　杉山千勢子

久振りで姉樣の御庭へ參ると春の日のぬくとさに、白牡丹や、緋牡丹は形くづさず咲いて居ると、胡蝶はその蔭でまふのです、七つ八つの雛は親鳥の懷から出ては、若い芽の葉を啄みながら、ぴよ〲はれまはる、いつもその看護の任を托された、腰のゆがんだ、祖母樣にこ〲してよう來ましたの……姉樣の機の音桃の宿から……歌の音さへ長閑にする。

評、長閑なる春の日の田舍、よく寫されたり。

、、〇哀歌　大分　桂木靜子

夕日まばゆき磯に立てば、遙かの沖には白帆の影二つ三つ、病める我身も此美しき光景に見惚れて、暫時茫然と佇んで居ると、何處より共なく、風がもてくる哀な歌「親のない子と磯邊の千鳥日さへ暮るればしほしほと」見れば向ふの巖影から、十二三才許りの少女、筏に竿さして現はれた、まあ何といふ悲しい謠だろふ、私は聞くと云ひ知れぬ悲哀の情の湧き出て、瞼はをのづと涙に閉された。

評、眞面目な筆、哀れな光景。

、、〇鶯　岡山　西村濟子

學びのまどに多くの友と、樂しくありしは昨日の夢なりしにあはれや、今ははたおるまどに只一人たゞ〲來啼く鶯を友として、山家住ひの淋しさをつく〲覺えつる程に、親しき二三の友より消息あればたゞ嬉しさ、なつかしさに胸もときめくなり。

評、やさしき筆。

、、〇雛　宮城　夏川あづま

日は長閑なり南風少し吹く、道端の草むらは皆青みたり、冠のいと赤き眞白の雄雞と、眞黑の雌雞とが青を踏みて食をあさり居ぬ、己れ二人の童をつれて行きかゝれば、雄雞は高らかに聲をあげぬ、靜かなるは田園の春にこそ。

評、簡にして要を得たり。

、、〇五月雨　横濱　板倉かすえ

けふも細い雨に明けて、細い雨に暮れた。紫の武庫が朦朧と枕んで、明光寺山の鐘が雨煙にかすむとき淋しい窓に倚ると、紅椿の花がポタリ〲と落ちる落ちて泥にまみれて居るのを見ると、私は泣きたくなる、あゝ五月雨はなぜこんなに寂しいだらうか、とすぐ古里の御兩親が偲ばれる。

評、五月雨の夕、君ならずとも、誰か母を呼ばざるものぞ。

、〇愛　下野　菊子

八重さんは私の愛人である、が八重さんは之を意識して居るかしら、私の此樣な思ひを抱いて、たえず八重なんに對して居るのを、恐らくは未だ知らないだらう、人に愛されて居て、それを意識しない八重さん、私はそれがいゝと思ふ、それが私の殊に八重さんを愛する所以なのである。

評、御尤もです、その通りでせう。

吉田安子の君に　青森　留目文子

あはれ懷しき安子の君よ思ひ出せば去年の今頃なりき共に共に手を取りて城山のほとりをさまよひしは吁其時君は何を宣給ひしか予と君とは永遠の友必ず變るな變らじと、あゝ情なき君よ君危篤ときくや予は走り行きぬされど君は既に此世の人にはあらざりしなりあゝ今一足早かりしならばと、予は泣きて泣きて泣き明しぬ、吁君と眺めてし花は再び咲けどゝ君は歸り來ることなし、あはれ懷かしき我友よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

大口鯛二選評
——(初夏雜詠)——

天　東京　宇佐美こま子

董野のかなたに遠く一村の桃咲くあたり鷄のこゑ

評曰號砲の音はきこえざる田舍にも眞晝を告ぐるものはありて春日の長閑なるさまよろし

地　京都　津田君子

糸櫻さかりの許にまとゐせんきませ我友道遠くとも

評曰此の絲櫻には友の心もひかれよろべし

人　京都　露　緒子

思ふことなきにしもあらぬ春雨のゆふべ淋しくひとり窓による

評曰花鳥の色にも音にもなぐさまぬこのわが心たれかしるらん

甲

草にゐてま〻事あそびする子等の赤きりぼんに胡蝶とびかふ　岡山　淸水梅子

黄色なるすゞ菜の畑に青々と麥畑つゞく我里の春　遠江　馬淵かをる

和田の原霞や雨となりにけんぬれ〳〵かへるあまのつりふね　千葉　濱野米子

はる雨の名殘の露の玉つばきほろ〳〵おづる夕さびしも　東京　飯塚きよ子

春雨の名殘の露をふく風にこぼれてにほふ初櫻かな　東京　杉中春子

色も香もなけれど一枝まゐらせん君よめてませ古里の梅　大分　桂木靜子

ふきすさふ風にちるとも八重櫻一重はのこれ春のかたみに　山口　末田竹子

さくら貝ひろひつかれて岩によりてかすみの中につゝむ舟見る　岩代　横山榮子

おとろきぬ土筆をあさる春の野の草の中よりあがるひばりに　廣島　松村壽賀子

あぜづたい菫つむ子の袂よりたちあがりてもなく雲雀かな　山口　末田貞節子

おりたちて濟むる庭にほろ〳〵と椿散りつゝ小雨ふるなり　石川　篤子

紅梅のつぼみの花におく玉のふくれては散るけさの雨かな　熊本　竹下かしく

ふるさとの春をしぬひて泣く友に笑顔をみせよこのさくら花　福島　何子

待願に今年も咲きぬ撫子花ともにながめし君は在さず　青森　留目文子

花見衣ぬひ終りつる嬉しさにさくらさく日のたゝまたれぬる　岩代　横山橘子

わがいほは花のはやしのうちなればよそより春はながくもあるらむ　横濱　鈴木まつ子

鶯におとらず我も歌ひなん花にそみたる春の心を　岡山　西村淸子

燒けあとの小さき草屋をかこみつゝ咲きほこりたる緋桃白桃　越後　杉山千黔子

はる日さす庭の飛石猫いれて渡る風なく桃の花ちる　長崎　山本兎喜子

たれこめてつれにはくらす老人も花にはいつかかくれいつらん　大阪　十合貴美子

琴の音にふとたゞずめる柴垣のしたりさくらに春かぜぞふく　東京　中隈富士子

さくら狩あかで歸りし花の上にこゝろおかるゝ夜半の雨かな　豐橋　木原貞子

學びやの柳青みて童部の遊びの時となりにけるかも　宮城　夏川あつま

なへて今花のさかりとなりにけりおきこゝちよき春のあけぼの　三重　庄司種子

畦道につくし摘みつゝ思はずも今日の一日をくらしけるかな　紀伊　内田こと子

ふるさとのひゝな遊びを偲へとや母のたまひしもゝの一枝　岡山　西村長子

都なる妹の文して知らせけり櫻の盛みに來ませよと　神奈川　森田田鶴子

なきとものはかにまうづるみちすがらたなりてゆかむこのさくらばな　東京　三宅ひさ子

ひないだくをさなきはまたをさなきが手をとりてゆく桃の下道　福島　鶴田よしの

春雨のしづくも香る梅が枝にこゑもをしまで鶯のなく　京都　小草

かげろふのもゆる野道に馬子がひく手綱はなれてあろく若駒　山口　末田貞節子

ほの〳〵とたてるかすみも春風にみだるばかりの青柳の糸　東京　千代林とく子

今日のみは花の上野に人絶えてさくらひしく春雨ぞふる　東京　淸水まつ

都より從姉の君の來ます日と梅いけて待つ妹かはゆし　岩代　長谷川よしの

なりは〳〵てふの訪ひ來る菜の花にいとよりほそき春雨のふる　豐橋　平松いと子

ふりくとは夢にも知らす青柳の糸よりほそき夜半の春雨　茨城　綿引馨子

きく人の耳にまかせてのどかなる春をしらぶる鶯の聲　青森　笹田正野

春の夜は峯の花よりあけめてふもとはかすみ八重にたなびく　廣島　金原直子

麥畑は青みわたりて畔道にすみれも匂ふ春の野邊かな　岡山　谷八職

さくら花あすはさかんとまつものを沫雪ふりてつぼみ凋みぬ　三重　日野千鶴子

長詩

新しき時代の
新しき女子の
新しき聲を聞け

復活(二等)　香川　瀬高やす子

菫にまじり咲きにける
醜草なるがおかしとて
物好みする人の手に
野路より移し植ゑられぬ。
胡蝶もゆかし春風も
幸ことほぎて訪ひくれど
なれぬ園生におのゝきぬ。
あゝされど猶しかすがに
命の筆はすてかねて
やさしく笑める櫻草
葉かげに小さう萌え出ぬ

評、初夏の光をあびて萌え出でしその草の香のいかばかり涼しからんと、

初夏(三等)　東京　神澤ゆき子

棕梠こそ繁れ初夏の
常陸に遠き窓なれば
母よと呼びて幼げに
懷しみ倚る影もなし
藥の香たかき病室に
生ける骸——廿年の
身を横たへて顧みる
春や昔の花の夢。
情なかりける骨格の
秀でし人に捧げたる
命いかなる宿業に
他人妻と呼ばるらん。

評、結句力弱きは口惜し。

秀逸

櫻狩　東京　佐野くに子

咲きも亂れて二里あまり
雲かと匂ふおぼろ夜の
小金井の里一めんに
堤は花にかざられぬ
風のたはぶれ——花吹雪
眺め得ならぬ風情かな
せめて一夜は京ごろも
ぬきて花ちる蔭に寢む

評、花ちる影のひと夜すがら、詩興そゞろなるべし。

○○わかれ　東京　宇佐美こま子

いざとばかりに頰笑めど
流石に胸の迫り來て
涙頰づたひ流れゐる
同じ思ひの母君も
身を勞はりて勧めよと
車を呼びて乘り給ふ
走り行く影み送りて
心淋しくそめば
そよ吹く風にハラ〳〵と
櫻ちりきぬ袖の上。

評、かりそめの別れなれど女心はさもあらなんやと

○○ゆく春　横濱　鈴木松子

花にあそびし夢さめて
果敢なさを知る我身かな
露もたわゝの山吹も
折りてかざさん紫あらず
わが戀人のおとづれの
絶えて久しくなりしより
いとゞ露けきわが心
春はてしなき夕暮に
遠方を指す雲のごと
しづ心なきわが思ひ。

評、空ゆく雲に言問はむ、古こひびとは恙なしやと

、、○月夜　京都　小草

雲とみまがふ櫻花
散りかふ春の夕月夜
ともに語りつ歌ひしも
今宵ばかりと送り來て
たゆたふ友が面顏の
やつれを知りぬ月あかり

評、前出「わかれ」と同評。

愛國婦人くらぶ

今日此頃は自分ながら可笑しい程、そはそはして居りますの、私どうしたんで御座いませう、東京は私が想像して居る通りでせうかしら、上京したらほんとうに直ぐ御伺ひ致しても宜う御座いますか(やす子)何時でも構ひません、御待ち申して居りますから早くいらつしやい(記者より)▲祇園のさくら此頃日毎にうはさにのぼり候上野向島のあたりの春色いかゞ御もらしを乞ふ、昨日いと麗き御本玉はり厚く御禮申上候、先の書を小言とおほせられ御はづかしく存じ候、何とでも仰せらるべく候先は御禮まで、かしこ(はつ子)怒つたり拗ねたりしては困ります。つい口が滑つた計りではありませんか、これからは決して「小言だ」なぞと申しませんから御機嫌を直して下さい(記者より)▲賞品に對する禮狀、佐野くに子(二通)小林龜子、板倉かずえ、竹林秋子、飯塚きよ子、金原直子、留目文子、杉中春子、(以上各通)

嫩草會(詩稿は毎月十五日迄に、幹事宛御送附ありたく候。以上)

時間と費用
三升の飯炊に僅か廿分間
其費用は一錢以内

瓦斯厨爐
石油用
石油が蒸發して瓦斯となる
目錄進呈
薪炭兩用
冨貴竈
鐵瓶湯沸類
洋式庖厨具、食器
食卓用品　一式
東京淺草區茅町一丁目淺草橋際
阿部彦四郎商店
長電話下谷一九二三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

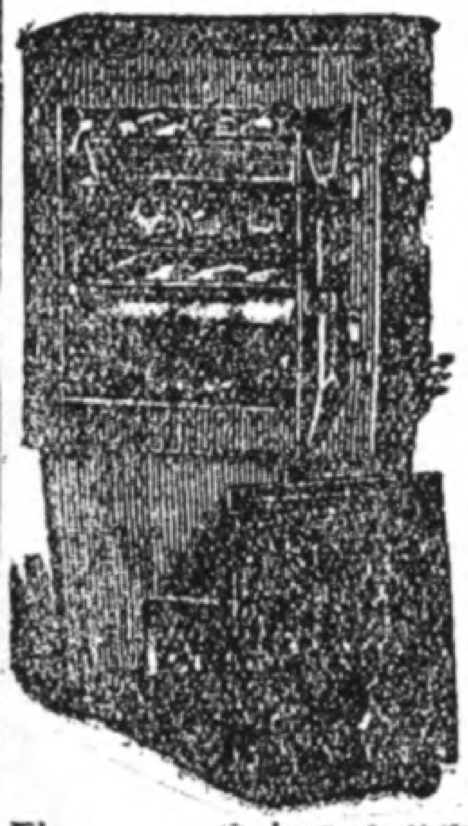
にきびをとる有効化粧液
チプリ
到る所に販賣し
廿ラグム入 二十五錢
東京本石町
松澤常吉

小兒科專門
腺病質、胎毒、貧血
小兒喘息、百日咳
小兒皮膚病、
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋數寄屋町一（呉服橋外）電本百八十

內科專門
杏雲堂醫院
神田區駿河臺
電本一六六九
院長醫學博士 佐々木政吉

色白く艶をだす（大形 廿錢 小形 十錢 新小角 十錢）
松澤ホーサン石鹸
◎近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市內賣藥小間物化粧品店にあり
東京本石町四
松澤常吉

家庭の重寶
世界好評



專賣特許 名和式蒸燒器（一名アンヒ）
在來のテンピと異り頂上に火を要せず爆爐の火力のみにて輕便迅速に和洋割烹に最適當の器なり、
大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
（說明書往復はがき）
東京市日本橋區蠣殼町二の一五
名和商店
電話浪花一一七七
振替貯金一〇二五四
到る處（金物店洋食器店）にあり

衣裳中入
吹留眞綿

男女羽織共定價物
七十錢 九十錢 一圓十錢 一圓卅錢

最上等の中入綿は吹留眞綿に限る
清潔に經濟に至便で暑工合よく普通眞綿の二倍以上の價値あり（專賣特許及實用新案併有）白木屋で松屋。大丸。伊藤松阪。高島屋。其他重なる呉服店にて販賣す
大賣捌 三越呉服店
製造元 麻布區狸穴吹留眞綿製作所

（注意）
近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

◎芳香の永く保つ點にて高評也
麝香獸印（大瓶 壹圓　中瓶 六十五錢　小瓶 二十五錢）
ムスク香水
東京日本橋本石町四
松澤常吉

婦人病專門
芝明舟町十九 虎門外宮樓前
電話新橋三三二四
院長 櫻井克己
櫻井醫院

良藥にして口に甘し
たんせきに
すきはらにめし
あさたあめ
淺田飴
たんせき ひきかぜ はいびやう よわき人によし
定價 金三拾錢 金五拾錢 金壹圓
東京本店 堀内伊太郎
支店 大阪
取次 全國藥店

東洋一の商品陳列即賣館
第一 第二 帝國博品館
第一館 新橋角 電話新橋一六五二番 二二六一番……あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す
第一第二館內各店共通商品切手發賣……御買上品は市內無賃で配達致します……
第二館 上野廣小路 電話下谷五三六番 三〇四四番……館內あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり
喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。休憩所。階上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

夏衣大賣出し
五月一日より
幷によせきれ見切反物澤山取揃へ陳列致置候
第二回特賣品部開催仕候
今回は弊店特製華織單帯（御婦人用）及び御召モスリンを前回同様破格に賣出し申候
神田今川橋
松屋呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮內省御用達

最上醬油之元祖

上

開業貳百六拾五年

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社 振替貯金口座五〇貳參番

最上醬油

品質優等ニシテ調理ニ適ス

發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地 濱口吉右衛門

釀造元 千葉縣銚子町 濱口吉兵衛

最上醬油 キハク印

於姫路島博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印

醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

產科婦人科專門 診察毎日午前 入院隨時

淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

岩田病院

大森澤潟屋製

寒製やき海苔

◎燒海苔は寒製の一品にして常に新海苔同樣の美味あり

●●燒海苔は永く貯藏に堪へ風味佳良なり

●●燒海苔は御贈答又は御進物には最好此の上なし

◎大罐五十錢 ◎中罐三十錢

發賣元 東京市四谷區麴町十二丁目 伊勢治茶店 電話番町六百六十番 振替口座東京六三八五番

▲意匠嶄新破格廉價正札付▲

儀式用鼈甲櫛笄　銀鍍櫛中差　金銀寶石入簪指輪　帶止ピン　珊瑚珠翡翠玉替　根掛　化粧品

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價幷に三拾錢均一物は御進物用として頗好評御便利爲御持古るしの小間物引取交換仕候

東京市神田須田町(電話本局二〇七六番 振替口座二八一二番)

小間物商 三井屋德次郎

鼈甲 京橋區新橋際 神田裏神保町

博品館內支店 東明館內支店

神田區西今川町三番地(電話本局三二〇一九)

內科病特に腦脊髓神經疾患

峰內科醫院

院長ドクトルメヂチーネル 峰秀世

日本國中に本誌を讀まざる婦人なをありや

婦人世界

五月一日發行 第四卷 第六號

毎月一日發行 一冊拾五錢 郵稅一錢 半年分增刊號共一圓五錢 一年分貳圓五錢

◎趣味の違ふ夫婦は如何に不幸なるか(大好評の大文字也) 村井弦齋

◎主人と女中(本號より新設す女中欄方必讀の記事を揭ぐ)

◎分娩の準備 醫學士榊順

◎米國人の育兒の實際談

◎我が家の實驗 讀者投稿

◎機嫌よき夫の顏

◎離婚されたる柴田環女史を訪ふ記 記者

◎天才ある婦人の結婚は幸福なるか 理學博士田中… 文學博士…

◎高橋男爵の令孃と共に米國の三年間 周防京子

◎弟と共に苦學して成功せし婦人の實歷 小林富子

◎初めてお眼にかゝる記 記者

◎新婚の西洋婦人を訪ふ記

◎交際社會の稀話珍談

◎私は姑として如何に嫁に對するか 棚橋絢子

◎結婚奇談

◎弦齋夫人料理

婦人世界臨時增刊 好評賞讃如湧 結婚の卷 價五十錢 郵稅一錢五厘

東京市日本橋區南茅場町十二 發行 實業之日本社 (郵便振替貯金口座三二六番) 賣捌 全國各地書店

五月一日より

夏衣大賣出し仕候

御ゆかた地其他いろ〱金壹圓均一の破格直段にて賣出し申候

日本橋通四丁目

松屋吳服店

牛山武兵衛

大黑天印

宮崎葡萄液

宮崎葡萄液は理學博士藥學博士長井先生及び藥學博士下山兩先生の指導の下に創製せしものにして恰かも葡萄の實を食するが如く毫も酒精分を含まず腦を刺戟するの虞れなく香味共に佳良にして消化力を助け血を增し肉を肥やし日常これを飲用せば偉大の効を奏し衞生上必須の飲料なり

▲ブランデー、ウヰスキー氷等に混ぜ飲用せば其の味ひ最も妙なり

▲御婦人又は酒を嗜まさる人の交際場裡に最適當の好飲料なり定價大壜四合入四拾錢小壜二合入廿二錢

宮內省御用達

發賣元 東京日本橋區通旅籠町(電話浪花八七〇)振替口座一九三七番 甲斐產商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意匠登録

玉おしろひ

産科婦人科小兒科

診察時間　院長　女醫　鷲山彌生　毎日午前八時より

醫員　毎日午後三時より

内科部長　醫學士　武智基造

診察時間　火木土午後壹時より

病室及産室の設けあり入院隨時

東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院　電話番町二二五七

老事海毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人所造三百婚へより寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに脊餘の禮狀を受け不思議のまゝ倘困難告ぐ三錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

日本醬油

甘露　壜詰

マツニホン　ウメニホン　フジニホン

京橋區本八丁堀　(電話新橋長三一一四番 四六六八番)

日本醬油釀造株式會社　出張所

第一工場　東京深川小名木川通

第二工場　攝津尼ケ崎町

愛國

理想の婦人

深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人

家庭にあり又交際場裡にありて常に清涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし

◎主効

◎頭痛◎眩暈◎氣鬱◎舟車醉◎時候傷◎水傷◎食傷◎消化不良◎口熱◎口中惡臭◎其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。

定價　七十五粒入十錢　百六十粒入廿錢　四百卅粒五十錢　九百粒入壹圓　容器入廿錢

東京馬喰町二丁目　愛國堂　山崎榮三郎

大阪高麗橋二丁目　山崎兄弟商會

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷一特九六五番 一二四四番

登錄商標

元祖ねびへしらず（小兒用）

僞物あり御買ひ求めの節目印登錄商標に御注意願上候

直段

表中形裏ネル　一才用二十錢　二才用廿三錢　三四才用廿六錢　五六才用廿九錢　七八才用卅三錢より

表メリンス裏同上　一才用三十七錢　二才用四十一錢　三四才用四十六錢　五六才用五十四錢　より四十二錢迄各種

地方は代金引替小包送料五個迄十七錢五個以上は送費當店持海外は實費頂戴可仕候

東京日本橋區ふきや町（電浪二二三四八）

製造卸小賣　佃屋商店

めりんす友禪

古渡り唐さん

仝外おしゃれ式袷安物

東京日本橋人形町通よし町

赤のれん　おまたや本店

電話浪花四三四五

登錄商標

外毒豫防ゴム製

婦人衛生必携器

定價甲種一個金壹圓同貳個入壹圓七拾錢　乙種一個金七拾五錢同貳個入壹圓參拾錢

さよごろもはゴム製にて嶄新の發明御婦人方の衛生上必ず携ふべき要用の良品なりさよごろもを用ふるときはいかなる場合といへども梅毒痳毒下疳等の傳染することなく又子宮を疵傷する患なしさよごろもは懷妊を望む御婦人は用ゆべからずこれを用ふるときは懷妊せざればなりさよごろもは月經の際經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむさよごろもの使用は本品を添て委細傳授すべし

○さよごろも入用の御人は御注文次第東京市内は無遞送料にて御届申上候其他地方は郵送料一個に付十錢で何國何處を問はず郵送申上候

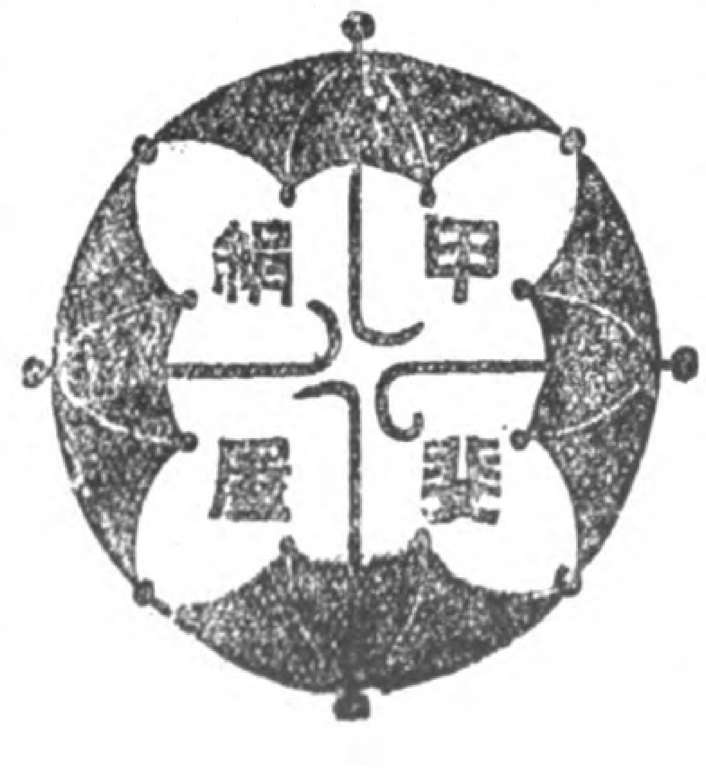
東京市兩國米澤町二丁目一番角

月やくはらひ通經丸本舖さよごろも發賣所茂琢堂藥舖

吉田安五郎

振替二二二〇六　電話浪花千百三十八番

商品切手調進仕候



本店　神田區小川町　電話本局四八九　振替貯金口座一五〇〇〇

支店　京橋區銀座　電話新橋八三三

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側

御影堂　持阿彌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殻町 春風舍
京橋南紺屋町 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社
京橋區 廣告社

天下の諸孃よ此二雜誌に倚りて溫き同情と清き慰籍を得よ

女學世界

五月一日發行 九卷第六號 正價廿錢 郵税二錢 前金郵税共十六冊一ヶ年三圓十二錢

◎中學生を持てる母親の手加減（勝浦鞆雄）
▼英國藝術家リビー孃の日本風俗記……伊澤夫人
▼何故に十歳の子を一人で渡米させたか　吉野作造
◎十年間修養の實驗
◎我が見たる支那婦人
▼罪惡の潜める料理屋の奥……覆面女史
▼名醫の注告に依て一命を拾ひし產婦の話
◎子供を育てる方法の研究會　婦人記者
◎地方風俗の變遷（神戸市の裏面觀察）
▼博覽會の齎らす智識……窪田勘六
▼商人氣質となりし私の働き振　黒柳女史
▼女子を實際的に仕立つる學校　天野博士
◎進歩的の家庭を經營せる主婦の苦心（諸大家の意見）

少女世界

▼五月一日發行▲ ◎四卷第七號 正價拾錢（郵税一錢） ◎前金郵税共十六冊分壹圓五十六錢

◉口繪 歸道 ◎躑躅 以上彩色石版
△躑躅（唱歌）　田山花袋
△虹の使　木村小舟
△算術（色彩）　竹貫直人
△八重一重（小説）　小波
△涎掛の編み方　富子
△私の少女時代　玉枝
◉寫眞版 無邪氣 ◎誌友の面影 ◎長野と三田の少女會…
△學問と實驗　高島女大講師
▼少女の讀書　文子其他
▼勝利の花環　西村渚山
▼泉のほとり　山本迷羊
▼さゝらなみ　巖谷小波
▼學藝室 ▼娛樂室 ▼談話室 ▼顧問堂

東京市本町三丁目 博文館發行（振替貯金二四〇番）

最も嶄新なる我國未曾有の大珍書

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 中島力造先生き 波多市松先生著

新刊 子どもの研究

上製金文字入 七拾錢（郵税八錢）

◎子を愛する父君よ未だ本書を讀まざるか 我男子を天晴れ偉人にするの研究は本書の目的
◎子を愛する母君よ未だ本書を讀まざるか 我女子を天晴れ賢女にするの方法は本書の特色
◎子供の書籍は本書第一たり 遊戲所行を見て之を善育する實例悉く掲載

▲村井弦齋君著 婦人の日常生活法 上製壹圓廿錢 並製壹圓 郵税上製拾貳錢 郵税並製八錢
▲弦齋夫人の料理談 第一編 第二編 大版美本 正價各六拾錢 郵税各八錢（二冊郵税拾貳錢）

東京京橋南紺屋町 實業之日本社 賣捌各地

水原產科婦人科病院

○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ產婆學校アリ

○院長 ドクトル 木村順吉
婦人科產科木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

婦人科產科 榊病院

院長 醫學博士 榊順次郎
副 醫學士 久保德太郎
副 醫學士 田代謹二
婦人科產科 毎日午前診察
婦人科的外科 外國留學中
婦人生殖器病 泌尿器病及内科
一般火木土午後診察
●施診火木土午後一時至二時
麹町三番町三三（電話番町三九五）

腦神經精神病科 加命堂腦病院

病室清新 診療確實
東京龜戸町 電話浪花二五五二

夏物新柄品揃

京都市四條御旅町
（大） 熊谷呉服店
長電三五番
振替口座 大阪五五二七番

實用新案特許第壹貳三六四號

衛生防虫寝衣　一名 のみよけしやつ

○のみ、南京虫等の害虫を完全に防ぐ
○體裁極めて能く洋服下着に最も適當す
○着服自由にして旅行用に最も宜く寝冷等の患なし
○大小便共自由に便し得るを以て婦人方にも宜し
○幾度洗濯するも差閊へなし

代價

	着丈	白キャラコ	白綿ネール
壹號	二尺	金一圓三十五錢	金一圓八十五錢
貳號	二尺三寸	金一圓五十五錢	金貳圓十錢
三號	二尺七寸	金一圓八十錢	金貳圓七十錢
四號	三尺三寸	金貳圓十錢	金三圓也
四號半	三尺五寸	金貳圓三十五錢	金三圓卅錢
五號	三尺八寸	金貳圓五十錢	金三圓五十錢

●右之外寸法地質等御好みに應じ代價の高抵有之候

御注文は御一報次第代金引替小包にて御送り申候

東京市京橋區元數寄屋町二丁目二番地
フタハ商會
電話新橋（二七二七・四三六九）番

日露大海戰史 豫約募集

詳細見本往復葉書にて御申越乞ふ

海軍軍令部御編纂

明治卅七八年海戰史

戰紀三卷（實價金七圓五拾錢） 豫約特價六圓（送料市内十二錢・地方四十八錢・清韓・臺灣・一圓廿錢）
申込期日 五月十日限り

●水交社藏版● 東京 春陽堂發行

送本期日 第一卷五月下旬●第二卷十二月●第三卷四十三年六月

豫約申込所 東京日本橋通四丁目角 春陽堂

明治四十二年五月五日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘 一ヶ月七錢郵税不要）
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人社
印刷所 東京市牛込區榎町 日清印刷株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

本部記事

口評議員會　本月廿六日(第四水曜日)午後二時より本部に於て開催、當日參事會員の改選を行ふ。因に記す去四月の例會は議案無かりし爲、開會せざりき。

口遺族接待　本月五六の兩日靖國神社臨時祭に際し、本會に於ては接待券を同神社に托して參拜の遺族に送り、兩日共評議員一同出席の上、本部に於て茶菓を饗し、紀念品を贈與せり、詳細は次號に掲載すべし。

茨城支部猿島郡古河町出張記

遊說員　近藤鈴子

明治四十二年四月十四日午後六時卅分上野發滊車にて八田擴張員と茨城支部管内猿島郡幹事部第一回總會(古河町に於て)へ臨席の爲出張、仝八時廿四分古河驛着、杉浦幹事部長杉浦顧問、鷹見古河町長其他の出迎を受け、仝町加类家に投宿す、茨城支部より出張せられし由、田中副長は事務員を從へ、仝家に投宿せられしにより夕食後一同打寄り會務上につき種々談話を交へたり。

仝十五日　別紙總會次第書の如く會場なる古河町尋常小學校に參着す、仝校玄關側に、閑院宮殿下御手植と記標せる月桂樹ありて、會場として最も緣故深き感あり、八田擴張員は祝辭に代へて、會務に關する演說あり、中にも仝町の會勢は前途最も有望にして御手植の月桂樹と古河桃林と相並びて縣下三優物となることは期して待つへしと說かれしには、一同感奮の情に堪へざる樣、見受けられたり、自分は本會の起原より旨趣救護法現况等を說明し、猶益々擴張の必要なることを演じ、式畢りて茶菓等の饗應を受け、幹事部長以下諸氏と、雨中を犯して古河桃林を觀覽し歸宿せり、而して午後三時五十分古河驛發仝六時上野着、滊車にて歸京せり、仝日は前夜來の大雨なるにも拘らず、會員は續々出席し、約百五十名に達し、嚴重なる式を擧げられたり、殊に諮話中最も靜粛に聽聞せられしは本會に熱心なるものゝ多きを證するに足れり

第一回總會次第

一　午前九時に參會し仝第十時(號鈴)式場參列のこと
二　會員總會開く旨を告く
三　君が代(起立)
四　幹事部顧問　令詞捧讀(此間各員最敬禮)
五　愛國婦人會々長祝電
六　支部長告辭
七　幹事部長報告幷答辭
八　來賓講話
九　閉會を告ぐ

右終り仝所に於て茶菓紀念品午餐を呈したる上古河町會員先導來賓及會員一同を桃林に案内し、四縣聯合學校生徒の競技運動を參觀し隨時解散せり

神奈川支部

四月十八日三浦郡横須賀市聯合總會擧行實况左の如し

午前十時三十分諸員式場に整列(第一鈴)
支部長御臨場幹事部長御先導(敬禮)
幹事部長開會を宣告す
幹事部長會員表を捧呈す
幹事部長令旨捧讀(敬禮)
支部長祝詞(敬禮)
幹事部長答詞
幹事部長事務報告
會員總代祝詞
幹事部長式の了を告ぐ

右に付日比主事長州事務員は前日より出張周布支部長周布顧問は當日事務員深川浪穗を從へ午前七時三十五分横濱發の列車にて臨場(會場は三浦郡衣笠山公園)此日會するものは以上の外上村藤井兩評議員石川足柄下郡幹事長始め各郡市幹事部長顧問事務員等招待を受けし者の外會員殆んど三千人實に空前の盛會にてありき而して此總會の爲め會員の增加せるは約四百人にして本縣に於て幹事部總會の擧行は是れを以て嚆矢とす他郡市も亦追々總會擧行の準備中なり而して此三浦横須賀聯合總會に就ては三浦郡幹事部長若林糸子顧問若林良之横須賀市幹事部長鈴木春子同顧問鈴木忠兵衛事務員福本友次郎同小松橙作外有志數氏の盡力せられし爲めにして祝詞答詞は次號之を揭ぐべし

地方愛讀諸姉に謹告

兼て廣告致候如く愛國婦人地方大取次所中不都合の廉ある向へ先般來交涉致居候結果突然本誌不着等のこと可有之然る場合には該取次所は既に當發行所と關係無之に至りしものと認められ直接當發行苑購讀方御申越被下度右は特に神戶、長崎等各地に於ける大取次所よりの本誌愛讀諸姉に對し豫め誤解なきやう謹告候也

愛國婦人發行所

富山支部

明治四十二年度愛國婦人會富山支部支出豫算書

一金貳千九百五拾參圓四拾七錢　救護金
　內譯
　金貳千貳百參拾七圓　定期救護金
　　但丙四百一人五圓宛丁二十九人八圓宛ノ見込
　金六百圓　授產場事業補助
　金百拾六圓四拾七錢　臨時救護金
　　臨時救護ノ必要アルトキ支出ノ見込
一金六千貳百四拾六圓九拾壹錢壹厘　經費
　內譯
　金貳千五百參拾四圓八拾錢壹厘　支部經費
　　內
　　金千五百四圓六拾六錢六厘　諸給與
　　金五拾四圓　傭人料
　　金貳百拾壹圓七拾五錢　旅費
　　金貳拾五圓　圖書及印刷費
　　金七拾五圓九拾五錢　備品費
　　金貳百四拾九圓四拾九錢五厘　消耗品費
　　金百貳拾圓貳拾四錢　通信運搬費
　　金百五拾九圓　雜費
　　金百參拾五圓　幹事部補助費
　金貳千七百八圓五拾壹錢　幹事部以下經費
　　年末會員貳萬六十三人ト見込一人平均九拾錢ノ百分ノ十五
　金千參圓六拾錢　募集費
　　遊說員給料金百四拾四圓同旅費金貳百七拾圓金五百四拾四圓六拾錢ハ新募員五千四百四十六人ト見込一人ニ付金拾錢宛各幹事部へ交付其他四拾五圓ハ募集者格別盡力者へ贈與品並ニ家屋借上ニ要スル見込ニ計上ス
總計
金九千貳百圓參拾八錢壹厘

說明
定期救護金ハ本會ヨリノ交付金額ヲ以テ支辨ス

支部基本金並ニ救護資金蓄積規程

第一條　當支部財政基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ本規程ニ依リ支部基本金並ニ救護資金ヲ蓄積增殖スルモノトス

第二條　支部基本金ハ規定ノ收入金及其利子救護資金ハ左記各號ノ金員及其利子ヲ蓄積スルモノトス
一　支部規準以上年醵金ヨリ生スル救護金ノ內半額
一　同上救護金ノ內救護實施後ノ殘額
一　指定定附金

第三條　救護資金ハ天災地變等ノ爲メ必要止ムヲ得ザル場合ニアラザレハ支出スルコトヲ得ズ

第四條　基本金及救護資金ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ利殖ヲ圖ルモノトス
但シ救護資金ハ本會長ノ認可ヲ得テ支出スルコトアルベシ

附則

第五條　本規程ハ明治四十一年度ヨリ實施ス

授產場收支決算

收入之部
一金貳千七百四拾四圓五拾八錢七厘　收入總額
　內譯
　金六百七拾圓　支部救護金ヨリ補助
　金四百參拾七圓七錢五厘　刺繡部收入高
　　內
　　金四百貳拾七圓參錢　刺繡工賃
　　金拾圓四錢五厘　原料戾入
　金千六百參拾七圓六拾壹錢貳厘　裁縫部收入高
　　內
　　金九百八拾貳圓七拾五錢五厘　製作品賣却代
　　金參拾六圓四拾七錢　工賃收入
　　金百四拾七圓八拾六錢　賣品代金
　　金參百拾壹圓五拾九錢七厘　製品現在高
　　金百五拾八圓九拾參錢　材料金高

支出之部
一金貳千七百四拾四圓五拾八錢七厘　支出總額
　內譯
　金參百六拾四圓貳拾錢五厘　場費
　　內
　　金百五拾參圓　給料
　　金貳拾圓五拾錢五厘　修繕費
　　金五拾五錢　人夫賃
　　金參圓貳拾貳錢　稅金
　　金百貳拾圓　借家料
　　金五圓拾錢　賄料
　　金六拾壹圓八拾參錢　消耗品費
　金五百六拾參圓貳拾五錢參厘　刺繡部支出
　　內
　　金四百參拾參圓參拾五錢　工賃支拂
　　金七拾八圓貳拾參錢參厘　給料
　　金壹圓　圖案料
　　金四拾參錢　備品費
　　金貳拾圓貳拾壹錢　材料
　　金壹圓五拾錢　部給金
　　金貳拾八圓五拾參錢　運搬費
　金千八百拾六圓參拾五錢壹厘　裁縫部支出
　　內
　　金百貳拾六圓貳拾參錢參厘　給料
　　金千八拾參圓參拾九錢貳厘　製作品材料
　　金參百九拾圓拾八錢　工賃支拂
　　金九圓六錢　運搬費
　　金參圓八拾錢　旅費
　　金八拾七圓四錢　備品費
　　金八拾九圓八拾九錢四厘　前年度製品損失
　　金貳拾六圓七拾五錢貳厘　購入品未拂高
　金七拾七錢八厘　剩餘金翌年へ繰越

四十一年度富山市幹事部會計決算書

收入之部
一金千貳百五拾五圓八錢四厘　收入總額
　內
　金九拾六圓貳拾八錢六厘　前年度ヨリ越高
　金千七圓六拾五錢　醵集高
　金百五拾壹圓拾四錢八厘　幹事部經費トシテ受入
　　醵集高ノ百分ノ十五

支出之部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一金千百五拾參圓五拾貳錢壹厘　支出總額
內
金千七圓六拾五錢　年醵金支部へ送納高
金參拾六圓　事務員手當
金五拾圓四拾七錢五厘　醵集金手數料
金五拾九圓參拾九錢六厘　奥村女史追悼會費

繰越之部
一金百壹圓五拾六錢參厘　翌年度へ繰越高

兵庫支部

兵庫支部に於ては同支部の事業としてシンガトミシン裁縫講習會を開設せり其目的は主として戰病死者遺家族並に廢兵の生業に資する爲め計畫せるものにして傍ら郡內愛國婦人會員の希望をも充たさしめんとするに在り講習生募集の結果志望者四十名にして出席せる講習生は目下三十六名なり會場は本年二月九日より三月一日迄三週間田原村振武館內に開設、神戶市北長狹通五丁目シンガー裁縫講習會支部より敎師二人を聘し講習を開きたるに何れも熱心に講習を受け短時間と雖も各自製作に係るもの多く殊に其內製作優美のものありたる三月一日講習三十大名に對し講習證書を交付し當日來賓及講習生等に茶菓の饗應をなし閉會す尤も講習中本部幹事一同時々觀察したり翌二日左記製作品を館內に陳列し郡內一般人民に縱覽せしめたるに該講習會を開きたるは本會の事業として誠に適切なる事とて一般好評を博したりとぞ

繪附錄の說明

本號に寫眞版附錄として靜岡支部總會の節癈兵慰代特別賜金拜授の狀況に就き揭ぐれば時は客年十月四日總裁閑院宮妃殿下の台臨を仰ぎ靜岡市淺間神社境內に於て同支部第一回總會を開催せり當日朝來天氣清朗、時恰も賤機山頭の紅葉點々として老松古杉の間を色彩し縱橫に揭揚せる國旗球燈と相應照し場內一層の光彩を添へたり當日來會者無慮四千有餘人定刻に至るや流亮たる奏樂の間　殿下には李家支部長御先導にて岩倉會長李家支部顧問松平評議員鍋島御用掛小島野崎兩支部副長松井家令杉原本部員田中支部主事隨從式場に台臨あり御諭旨を賜はりたる後遺族及癈兵に對し特別御下賜金あり當日癈兵總代として受領せしは濱名郡淺湯村元步兵一等卒新村安吉氏にして同氏は日露戰役に際し步兵第十八聯隊に屬し出征三十七年二月廿五日盛京省南山激戰の際負傷し腰部以下の自由を失し遂に癈疾の身となり可惜血氣の春秋を斯る可憐の境に送り百事家人の介輔に依り漸く朝夕の自由を辨ずるに過ぎず偶々支部總會に際し招待せらるゝや父の扶を得て出席し御下賜金受領の際は支部幹事坂主れい子幹事部事務員兩氏の介輔に依り壁り出で御前に進み殿下より下賜せらるゝの御沙汰書を拜受せんと全身の熱誠を以て双手を差上げたるも御座所は一段高くして手の達せざる爲め坂主幹事縣事務員抱擁介輔して拜受せしめんと焦心せる折柄殿下には最前よりの狀况を憫然に思召されけん直に式壇より降らせ給ひ御手づから同氏に御下賜ありしかば同氏及岩倉會長李家支部顧問其他近侍の人々は勿論四千有餘人の來會員一同孰れも感涙に咽びたり殊に遺族等に在りては今や感極まりて歔欷流涕の狀實に言ふ能はざるの光景なりき本號に繪附錄とせるは即ち其狀况を書けるものを同支部より總裁殿下に獻上せるものゝ寫眞にして　殿下の御仁慈に在らせ給ふことは今更申上る迄もなき事ながら如斯優渥なる御思召ありたるは寔に支部の光榮と云ふべく同支部に於ては愈奮勵會務擴張に盡力し台旨に副はんと務めつゝありとぞ

京都御料理
お多福豆
平野家東京支店
電話本局三千百三十番
東京日本橋區上槇町拾壹番地

院長診察月水金木前
貧窮者施診火木前入院診斷隨時應需
松田醫學士診察火土
松田林兩副長は目下當院に在勤
東洋內科醫院
電本八八八（病院用）八九八（私宅用）
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
院長 醫學士 高田畊安
南湖院
神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）
河野副長は目下當院に在勤院長診察
土曜日午後○同時窮者施診副長診察
月、火、水、木、金、土、午前

內科一般
午前宅診 午後往診
板垣亭
東京神田美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番

宮崎
宮崎タンス
京都夷川堺町
電一八二〇番
簞笥店

資本金千八百萬圓
株式會社 十五銀行
東京京橋區木挽町
電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番
同 日本橋支店
同日本橋區新乘物町
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

HIGH LIFE CIGARETTES.

紳士淑女の渴望せらるゝ
尤も馥郁たる芳香も
爽快なる甘味に富んだる
舶來紙卷煙草
ハイ　ライフ　シガレシト
輸入せられたり

餞別物、贈物
なされ給う時は
高尚で、手輕く
何人にも嬉ばる
ハイ　ライフ　シガレット
に優るものなし

幾百種も數ある中で
歐米各國の貴顯方に
日常愛翫せらるゝ
紙卷煙草は
たゞ
ハイ　ライフ　シガレット
あるのみ

百本入一箱
代價拾三圓
不拘遠近御注文
に應ず郵送無料

直輸入元
神戶市播磨町五十番館
ピ、オルンスチキン商會

東京販賣店
東京新橋　肥前屋

F. E. A. A., 107.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年五月五日（毎月二回五日、廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

閑院宮妃殿下へ献上の静岡支部總會式場圖
（愛國婦人會記事欄參照）

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所日清印刷株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN